

HP Systems Insight Manager 7.1 Linux 用インストール/コンフィギュレーションガイド

HP 部品番号: 418811-591
2012 年 6 月
第 1 版



法的な注意事項

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPから使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ（Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items）は、ベンダー標準の商業用ライセンスのもとで、米国政府にライセンスが付与されます。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

ご注意

Microsoft® および Windows® は、米国における、Microsoft Corporation の登録商標です。

Intel® と Intel® Xeon® は、米国ならびに他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

目次

1 インストールの概要と要件	5
初期インストールプロセスの概要.....	5
アップグレードの概要.....	5
システム要件.....	5
Adobe Flash Player のサポート.....	5
パート 1：Linux 中央管理サーバー.....	5
パート 2：管理対象システムの要件と推奨事項.....	8
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) バージョン 6.0 のインストール.....	15
管理対象ストレージシステム.....	15
SSH の要件.....	16
外国語サポート.....	16
HP CloudSystem Integrated Manager の要件.....	16
システムサポート.....	16
ハードウェアサポート.....	16
2 CMS への HP SIM の初期インストール	22
システムの準備.....	22
ソフトウェアのインストールと設定.....	23
HP SIM の自動インストール.....	24
HP SIM の手動インストール.....	24
HP SIM のインストール後に実行する作業 HP SIM.....	26
Linux VCRM 機能の有効化.....	29
次のステップ.....	30
3 管理対象システムのセットアップ	31
Linux システムでの Proliant または Integrity Support Pack の初期インストール.....	31
管理対象ストレージシステムのセットアップ.....	31
SMI-S プロバイダーのインストール.....	31
SSL の確認.....	32
SMI-S プロバイダーの設定.....	32
ストレージシステム検出のための HP SIM の設定.....	32
RHEL 6.0 のインストール手順.....	32
4 HP SIM の設定	34
ファーストタイム ウィザードによる HP Systems Insight Manager の設定.....	34
[オプション] メニューによる HP SIM の設定.....	35
Linux 管理対象システムの手動セットアップ.....	37
5 HP SIM からのアップグレード	39
Linux での HP SIM のアップグレード.....	39
6 HP SIM のアンインストール	43
Linux システムからの HP SIM のアンインストール.....	43
7 設定オプション	44
データ収集時の CPU 利用率.....	44
概要.....	44
実装.....	44
GUI のタイムアウトポリシー.....	44
概要.....	44
実装.....	45
Systems Insight Manager の監査ログ設定.....	45
概要.....	45
実装.....	46

タスクの結果の設定.....	46
8 トラブルシューティング.....	48
9 サポートと他のリソース.....	51
ご連絡の前にご用意いただく情報.....	51
HP テクニカルサポートへのご連絡方法.....	51
ソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスへの登録.....	51
ソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスの使用方法.....	51
保証情報.....	51
参考資料.....	52
マニュアルおよびサポート.....	52
Systems Insight Manager の資料.....	52
表記規約.....	52
用語解説.....	53
索引.....	67

1 インストールの概要と要件

この章では、HP Systems Insight Manager のインストールプロセスについて概説する他、Linux CMS、管理対象システム、およびネットワーククライアントのシステム要件についても説明します。

初期インストールプロセスの概要

HP Systems Insight Manager を初めて CMS にインストールする際は、以下の手順を実行します。

1. CMS をインストールして設定します。詳細については、「[CMS への HP SIM の初期インストール](#)」(22 ページ)を参照してください。
2. CMS で管理する予定のシステム上に、必要な Insight マネジメント エージェントをインストールして設定します。詳細については、「[管理対象システムのセットアップ](#)」(31 ページ)を参照してください。
3. 各自の環境に合わせて HP SIM を設定します。詳細については、「[HP SIM の設定](#)」(34 ページ)を参照してください。

アップグレードの概要

CMS に HP SIM がインストールされている場合は、「[HP SIM からのアップグレード](#)」(39 ページ)のアップグレード手順に従って操作を進めてください。

システム要件

この項では、HP SIM のハードウェア要件とソフトウェア要件、および推奨事項について説明します。ここでは、各要件を、対象となるシステム（CMS、管理対象システム、およびネットワーククライアント）別に項を分けて説明します。

Adobe Flash Player のサポート

Adobe Flash Player バージョン 10.3.183.11 以上の使用をおすすめします。これは Adobe Flash Player 10 のパッチ適用済みバージョンです。<http://www.adobe.com/support/security/bulletins/qpsb11-28.html> リンクから、パッチ適用済みの最新バージョンをダウンロードしてください。

パート 1 : Linux 中央管理サーバー

オペレーティングシステム

- Red Hat Enterprise Linux 6.2 x86
- Red Hat Enterprise Linux 6.2 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 6.1 x86
- Red Hat Enterprise Linux 6.1 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 6 x86
- Red Hat Enterprise Linux 6 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.8 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.8 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.7 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.7 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 AMD64/EM64T

- SUSE Linux Enterprise Server 11 x86, SP1
 - SUSE Linux Enterprise Server 11 AMD64/EM64T, SP1
 - SUSE Linux Enterprise Server 11 x86, SP2
 - SUSE Linux Enterprise Server 11 AMD64/EM64T, SP2
 - SUSE Linux Enterprise Server 10 x86, SP4
 - SUSE Linux Enterprise Server 10 AMD64/EM64T, SP4
 - SUSE Linux Enterprise Server 10 x86, SP3
 - SUSE Linux Enterprise Server 10 AMD64/EM64T SP3
-

注記: HP SIM は、次の要件が満たされる場合、Linux 仮想マシン (VM) で実行できます。VM は、ESX 3.5 Update5 以上のサーバーでホストにする必要があります。また、VM の設定は HP SIM のハードウェア要件を満たす必要があります。この VM に割り当てる CPU とメモリのリソースは、通常、(CPU とメモリのリソースを確保して) この VM に適用させる必要があります。

注記: Linux Itanium Processor Family (IPF) への HP SIM のインストールはサポートされていません。次のエラーメッセージが表示される場合、その原因はサポートされていない IPF システムへの手動インストールを試みていることにあります。

- `error: %pre(hpsim-C.06.x.00.00-1.i386) scriptlet failed, exit status 255`
 - `error: install: %pre scriptlet failed (2), skipping hpsim-C.6.x.00.00-1`
-

ハードウェア

- 次のように構成されている任意の HP IA-32、AMD64、または EM64T システム
 - 最小構成：1.5GHz のプロセッサと 1GB の RAM
 - 推奨構成：2.4GHz のプロセッサと 2GB の RAM
- 空きディスク容量
 - CMS (/) 用に 2MB
 - CMS エージェントおよび DTF エージェント (/opt) 用に 400MB
 - データ (/var/opt) 用に 500MB 以上を推奨

ソフトウェア

- 汎用
 - OpenSSH バージョン 1.0 以上
 - ProLiant Support Pack for Linux 7.00 以上
 - Oracle 10g R2 (10.2.0.3) 以降

注記: Oracle は、最大 5,000 台のシステムと 50,000 件のイベントをサポートします。

注記: Oracle JDBC ドライバーのバージョン 10.2.0.4 をインストールする必要があります。このドライバーは、Oracle 社の Web サイト http://www.oracle.com/technology/software/tech/java/sqlj_jdbc/index.html からダウンロードできます。

注記: HP SIM をインストールする前に、AL32UTF8 の Unicode 文字セットと AL16UTF16 の各国文字セットで Oracle データベースを作成する必要があります。NLS の長さは、BYTE に設定する必要があります。また、thin クライアント.jar ファイルの位置を指定する必要があります。HP SIM を使用するには、システムの再起動時に、Oracle データベースサービスと TNS (Transparent Network Substrate) リスナーサービスが起動していなければなりません。Oracle 自体が、Oracle データベースや TNS リスナーを自動的に起動することはありません。Oracle データベース管理者 (DBA) は、これらのサービスを設定して、サーバーのリセット時に再起動するようにしておく必要があります。これらのサービスの自動起動手順については、http://download-east.oracle.com/docs/html/A96167_01/post-inst.htm#sthref548 からアクセスできる Oracle のドキュメントを参照してください。このリンクにアクセスするには、登録が必要です。Oracle のインストールを管理する Oracle DBA はこの作業を実行する必要があります。

- PostgreSQL 8.2.1 (hpsmdb)

注記: hpsmdb のこのバージョンは、最大 500 台のシステムと 5,000 件のイベントをサポートします。

ブラウザーソフトウェア :

- Mozilla Firefox 3.x
- Mozilla Firefox 6.x
- Mozilla Firefox 9.x
- Mozilla Firefox 10.x

ネットワーク機能

- 静的または動的なホスト名解決

注記: Linux システム上の `/etc/hosts` ファイルに、`127.0.0.1 localhost` エントリー、ならびにローカルシステムの IP アドレスおよびシステム名エントリーがあるかどうかを確認してください。ない場合は、手動で追加します。

- SNMP

パート 2：管理対象システムの要件と推奨事項

オペレーティングシステム

- **Windows 管理対象システム**
 - Windows Server 2008 R2 Standard Server Core, SP1
 - Windows Server 2008 R2 Enterprise Server Core, SP1
 - Windows Server 2008 Standard Server Core, SP2
 - Windows Server 2008 Enterprise Server Core, SP2
 - Windows Storage Server 2008 R2 Standard, SP1
 - Windows Storage Server 2008 R2 Enterprise, SP1
 - Windows Storage Server 2008 R2 Standard
 - Windows Storage Server 2008 R2 Enterprise
 - Windows Server 2008 Standard
 - Windows Server 2008 Enterprise
 - Windows Server 2008 Data Center
 - Windows Server 2008 Small Business Server
 - Windows Server 2008 Web Ed
 - Windows Server 2008 Itanium-based
 - Windows Storage Server 2008 Standard (x64)
 - Windows Storage Server 2008 Enterprise (x64)
 - Windows Server 2008 R2 Standard, SP1
 - Windows Server 2008 R2 Enterprise, SP1
 - Windows Server 2008 R2 Data Center, SP1
 - Windows Server 2008 R2 Web Server, SP1
 - Windows HPC Server 2008 R2
 - Windows Server 2008 R2 Standard
 - Windows Server 2008 R2 Enterprise
 - Windows Server 2008 R2 Data Center
 - Windows Server 2008 R2 Small Business Server
 - Windows Server 2008 R2 Web Server
 - Windows Server 2008 R2 Itanium
 - Windows Server 2008 Standard, SP2
 - Windows Server 2008 Standard (x64) , SP2
 - Windows Server 2008 Standard (x64)
 - Windows Server 2008 Enterprise, SP2
 - Windows Server 2008 Enterprise (x64) , SP2

-
- Windows Server 2008 Enterprise (x64)
- Windows Server 2008 Data Center, SP2
- Windows Server 2008 Small Business Server, SP2
- Windows Server 2008 Web Ed, SP2
- Windows Server 2008 Itanium-based, SP2
- Windows Storage Server 2008
- Windows 2003 R2 Standard
- Windows 2003 R2 Standard (x64)
- Windows 2003 R2 Standard, SP2
- Windows 2003 R2 Standard (x64) , SP2
- Windows 2003 R2 Enterprise
- Windows 2003 R2 Enterprise (x64)
- Windows 2003 R2 Enterprise, SP2
- Windows 2003 R2 Enterprise (x64) , SP2
- Windows 2003 R2 DataCenter
- Windows 2003 R2 DataCenter, SP2
- Windows 2003 Standard, SP1
- Windows 2003 Standard (x64) , SP1
- Windows 2003 Standard, SP2
- Windows 2003 Standard (x64) , SP2
- Windows 2003 Enterprise, SP1
- Windows 2003 Enterprise (x64) SP1
- Windows 2003 Enterprise (IA64) SP1
- Windows 2003 Enterprise, SP2
- Windows 2003 Enterprise (x64) , SP2
- Windows 2003 Enterprise (IA64) SP2
- Windows 2003 Data Center, SP1
- Windows 2003 Data Center (x64) , SP1
- Windows 2003 Data Center (IA64) , SP1
- Windows 2003 Data Center SP2
- Windows 2003 Data Center (x64) , SP2

- Windows 2003 Data Center (IA64) , SP2
- Windows 2003 Web Edition SP1
- Windows 2003 Web Edition SP2
- Windows Small Business Server 2011 Standard
- Windows Small Business Server 2011 Essentials
- Windows 7 (Professional/Enterprise)
- Windows 7 (Professional/Enterprise) (x64)
- Windows Vista (Business/Enterprise) SP2
- Windows Vista (Business/Enterprise) (x64) SP2
- **HP-UX および HP NonStop Kernel 管理対象システム**
 - HP-UX 11i v1 (11.11)
 - HP-UX 11i v2 Update 2 (11.23 IA/PA)
 - HP-UX 11i v3 (11.31 IA/PA)
 - HP NonStop Kernel
 - OpenVMS 8.3
 - OpenVMS 8.4
- **Linux 管理対象システム**
 - Oracle Enterprise Linux 5.8 x86
 - Oracle Enterprise Linux 5.8 AMD64/EM64T
 - Oracle Enterprise Linux 5.7 x86
 - Oracle Enterprise Linux 5.7 AMD64/EM64T
 - Oracle Enterprise Linux 5.6 x86
 - Oracle Enterprise Linux 5.6 AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 6.2 IPF
 - Red Hat Enterprise Linux 6.2 x86
 - Red Hat Enterprise Linux 6.2 AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 6.1 IPF
 - Red Hat Enterprise Linux 6.1 x86
 - Red Hat Enterprise Linux 6.1 AMD64/EM64T
 - Red Hat Enterprise Linux 6 IPF
 - Red Hat Enterprise Linux 6 x86
 - Red Hat Enterprise Linux 6 AMD64/EM64T

- Red Hat Enterprise Linux 5.8 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.8 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.8 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.7 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.7 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.7 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.4 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.4 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.4 AMD64/EM64T
- Red Hat Enterprise Linux 5.3 IPF
- Red Hat Enterprise Linux 5.3 x86
- Red Hat Enterprise Linux 5.3 AMD64/EM64T
- SUSE Linux Enterprise 11 IPF, SP2
- SUSE Linux Enterprise 11 x86, SP2
- SUSE Linux Enterprise 11 AMD64/EM64T, SP2
- SUSE Linux Enterprise 11 IPF, SP1
- SUSE Linux Enterprise 11 x86, SP1
- SUSE Linux Enterprise 11 AMD64/EM64T, SP1
- SUSE Linux Enterprise 10 IPF, SP4
- SUSE Linux Enterprise 10 x86, SP4
- SUSE Linux Enterprise 10 AMD64/EM64T, SP4
- SUSE Linux Enterprise 10 IPF, SP3
- SUSE Linux Enterprise 10 x86, SP3
- SUSE Linux Enterprise 10 AMD64/EM64T, SP3
- Debian 5.5

- **VMware および仮想マシン管理対象システム**

- VMware ESXi 5.0 Update 1
- VMware ESXi 5.0
- VMware ESXi 4.1 Update 1
- VMware ESX 4.0 Update 4
- VMware ESX 4.0 Update 3
- VMware ESX 4.0 Update 2
- VMware ESXi 4.0 Update 4
- VMware ESXi 4.0 Update 3
- VMware ESXi 4.0 Update 2
- RHEL 5 上の Xen
- SLES 11 上の Xen
- SLES 10 上の Xen
- Integrity VM Windows (ゲスト OS Windows を実行)
- Integrity VM Linux (ゲスト OS Linux を実行)
- Integrity VM HP-UX (ゲスト OS HP-UX 11i v2 を実行)
- Integrity VM HP-UX (ゲスト OS HP-UX 11i v3 を実行)
- Microsoft Virtual Server 2005 R2 SP1
- Microsoft Virtual Server 2005 R2
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Windows Server 2008 Hyper-V SP2
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Windows Server 2008 R2 Hyper-V SP1
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Windows Server 2008 R2 Hyper-V
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Hyper-V Server 2008 SP2
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Hyper-V Server 2008 R2 SP1
- ゲスト Windows を実行している Microsoft Hyper-V Server 2008 R2
- **Novell 管理対象システム**
 - Netware 6.5
 - Netware 6.0
- **SUN 管理対象システム**
 - Solaris 10 Sparc
 - Solaris 9 Sparc
 - Solaris 11 Intel Platform
 - Solaris 10 Intel Platform
 - Solaris 9 Intel Platform

-
- Solaris 8 Intel Platform
- **IBM 管理対象システム**
 - AIX 6.1
 - AIX 5.3

ハードウェア

- **Windows の場合**
 - 任意の HP ProLiant システム
 - 任意の HP Itanium ベースシステム
- **HP-UX の場合**
 - 任意の HP PA-RISC システム
 - 任意の HP Itanium®ベースシステム
- **Linux の場合**
 - 任意の HP ProLiant システム
 - 任意の HP Itanium ベースシステム

ソフトウェア

このソフトウェアは必須ではありませんが、管理機能を強化するには、このコンポーネントをインストールすることをおすすめします。

Windows の場合

- OpenSSH Services 5.3 p1
- ProLiant Support Pack 6.30 以上
- WBEM/WMI
- SNMP (WBEM の代替として推奨)

Linux の場合

- SSH
- ProLiant Support Pack for Linux 7.0 以上
- SNMP (WBEM の代替として推奨)

このソフトウェアは必須ではありませんが、HP SIM の機能を強化するには、このコンポーネントをインストールすることをおすすめします。各コンポーネントはさまざまなソフトウェアサプライヤから購入またはダウンロードできます。

- SSH Client
- X Window Server

必要な Web ブラウザー

- **Windows の場合**
 - Microsoft Internet Explorer 9
 - Microsoft Internet Explorer 8
 - Microsoft Internet Explorer 7
 - Mozilla Firefox 3.x
 - Mozilla Firefox 6.x
 - Mozilla Firefox 9.x
 - Mozilla Firefox 10.x

注記: 最適なパフォーマンスを得るために、ブラウザーの解像度は、1024×768 以上にしてください。

- **HP-UX の場合**
 - Mozilla Firefox 3.5 (3.5.09.00)
 - Mozilla Firefox 3.6
- **Linux の場合**
 - Mozilla Firefox 3.x
 - Mozilla Firefox 6.x
 - Mozilla Firefox 9.x
 - Mozilla Firefox 10.x

注記: HP SIM が適切に動作するには、すべての Internet Explorer ブラウザーで、SSL 3.0 または TLS 1.0 ブラウザーセキュリティオプションを有効にしておく必要があります。

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) バージョン 6.0 のインストール

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) バージョン 6.0 をインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. **[基本サーバー]**を選択します。
2. **[今すぐカスタマイズ]**を選択します。
3. **[ベースシステム]**の下で、次の追加ライブラリを選択します。
 - 互換ライブラリ
 - **[ハードウェア監視ユーティリティ]**の下で、次を選択する必要があります
 - • lm_sensor-3.1.1-10.el6-

管理対象ストレージシステム

ファイバーチャネルディスクアレイ、スイッチ、テープライブラリ、ホスト（ファイバーチャネルホストバスアダプターを取り付け済み）など各ストレージシステムについての HP SIM によるサポートに関する最新情報を確認するには、HP の HP SIM SMI-S プロバイダーの Web ページ <http://www.hp.com/go/hpsim/providers>（英語）を参照してください。

この Web ページでは、SMI-S プロバイダーの入手およびインストールについても説明しています。

SSH の要件

SSH は、CMS に HP SIM をローカルでインストールする際に、ローカルで設定します。

[ツール]メニューの [カスタムツール]を実行するには、CMS 上に SSH バージョン 1.0 以上をインストールする必要があります。このカスタムコマンドは CMS 上で、特定のイベントまたはデバイスに対する環境変数を設定して実行されます。

各管理対象システム上に SSH バージョン 1.0 以上をインストールして設定し、HP SIM と管理対象システムの間で SSH の鍵を交換することも可能です (mxagentconfig コマンド、または Windows の場合は Install SSH タスクを使用)。鍵を交換した場合は、この管理対象システムに対して、[ツール]メニューの [コマンドラインツール]オプションを使用できるようになります。リモートの SSH クライアントにはこのオプションを適用しないよう設定してある場合、このコマンドは失敗します。この機能の他には、SSH がなければ実行できない機能は特にありません。

外国語サポート

日本語、韓国語、簡体字中国語、および繁体字中国語は、「システム要件」(5 ページ)で示すすべてのプラットフォームでサポートされています。フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語は、Windows システムのみでサポートされています。

HP CloudSystem Integrated Manager の要件

HP CloudSystem Integrated Manager は、ブレードコンピューターシステム、データおよびストレージネットワークへの統合接続、ならびに共有電源サブシステムで構成されます。HP CloudSystem Integrated Manager を使用すると、ユーザーは、ご使用の HP CloudSystem 環境 (サーバーブレード/デスクトップ、エンクロージャーインフラストラクチャ、ラック、統合スイッチなど) を階層型ツリービュー/ピクチャービューによって素早く操作することができます。これにより、個々のブレードシステムまたはブレードシステムグループを簡単に管理することができます。

システムサポート

CloudSystem Integrated Manager は、ブレードインフラストラクチャを管理します。サポートされるシステムの最新のリストは、HP の Web サイト <http://h18002.www1.hp.com/products/servers/management/bsme/index.html> (英語) に掲載されています。

ハードウェアサポート

表 1 サポートされる HP c-Class プラットフォーム

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
BladeSystem c3000	2.00 以上
BladeSystem c3000 タワーモデル	2.10 以上
BladeSystem c7000	1.30 以上

表 2 サポートされる HP e-Class プラットフォーム

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
ProLiant BL 10e エンクロージャー	NA

表 3 サポートされる HP p-Class プラットフォーム

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
ProLiant p-Class 1U パワーエンクロージャー	2.40
ProLiant p-Class 3U パワーエンクロージャー	2.40
ProLiant p-Class 拡張エンクロージャー	2.40
ProLiant p-Class 標準エンクロージャー	2.40

表 4 サポートされる c-Class サーバー

製品モデル	必要な BIOS - システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO2 / iLO3/ iLO4 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
AiO SB600c ストレージソリューション	2008.01.24	1.43	Microsoft Windows Storage Server 2003	7.91.0.0
HP Carrier Grade AMC 拡張	NA	NA	NA	NA
HP テープブレード	NA	T61D ²	Microsoft Windows 2000	NA
HP SB40c for HP c-Class BladeSystem	NA	2.0.0.0 ²	NA	NA
Integrity BL860c	01.01A	T 02.05 以降	Windows、Linux、および HP-UX	NA
Integrity BL870c	03.11	TO2.05 以降	Windows、Linux、および HP-UX	NA
PCI 拡張ブレード	NA	NA	NA	NA
ProLiant BL260c G6	NA	1.75 以上	Windows、Linux、Solaris、および NetWare	8.20
ProLiant BL260c G5	I20 02/14/2008	1.50 以上	Windows および Linux	8.00
ProLiant BL280c G6	I22 3/11/09	1.75	Windows および Linux	8.20
ProLiant BL460c	5/1/2007	1.24 以上	Windows および Linux	7.50 以上
ProLiant BL460c G6	I24 2/24/09	1.75	Windows および Linux	8.20
ProLiant BL465c	6/1/2005	1.24 以上	Windows および Linux	7.60 以上
ProLiant BL465c G5	9/12/2008	1.70	Windows Server 2003 および 2008、Linux、Solaris、および VMware ESX Server	8.15
ProLiant BL480c	5/1/2007	1.24 以上	Windows および Linux	7.50 以上
ProLiant BL490c G6	I21 2/23/09	1.75	Windows および Linux	8.20

表 4 サポートされる c-Class サーバー (続き)

製品モデル	必要な BIOS - システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO2 / iLO3/ iLO4 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
ProLiant BL495c G6	A14 05/07/2009	1.78	Windows 2003、Windows 2008、RHEL 5 Update 3、RHEL 4 (Update 8 以降)、VMware ESX 4.0.0 以降、XenSource、RedHat XEN、および SLES XEN	8.25
ProLiant BL495c G5	8/29/2008	1.61	Windows Server 2003 および 2008、Linux、および VMware ESX Server	8.11
ProLiant BL680c G5	10/18/2007	1.35 以上	Windows および Linux	7.9 以上
ProLiant BL685c	6/1/2005	1.24 以上	Windows および Linux	7.60 以上
ProLiant BL685c G6	A17 2/14/2009	1.75	Windows および Linux	8.20
ProLiant BL2x220c G5	119 03/03/2008	1.50 以上	Windows および Linux	8.00
ProLiant BLxw460c Blade Workstation	7/31/2007	1.30 以上	Windows XP または Vista、および Linux	7.91 以上
ProLiant xw2x220c Blade Workstation	09/16/2008	1.60	Windows XP または Vista	8.15

¹ オペレーティングシステムの具体的なバージョンについては、HP の Web サイト <http://h10018.www1.hp.com/wwsolutions/index.html> (英語) に掲載されている ProLiant サポートマトリックスを参照してください。

² ファームウェア・ストレージテープ

表 5 サポートされるサーバー HP Consolidated Client Infrastructure (CCI)

製品モデル	必要な BIOS - システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO2 / iLO3/ iLO4 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
ProLiant BL1000	2.04 A	4.01 Rev. A ² 15 Jan 2008	Windows XP	NA
ProLiant BL1500	1.02 Rev. A	4.01 Rev. A ² 15 Jan 2008	Windows XP または Vista	NA
ProLiant BL2000	2.06 Rev. A	4.01 Rev. A ² 15 Jan 2008	Windows XP または Vista	NA
ProLiant BL2500	2.06 Rev. A	4.01 Rev. A ² 15 Jan 2008	Windows XP または Vista	NA

¹ オペレーティングシステムの具体的なバージョンについては、HP の Web サイト <http://h10018.www1.hp.com/wwsolutions/index.html> (英語) に掲載されている ProLiant サポートマトリックスを参照してください。

² [HP PC BL Enclosure Integrated Administrator](#)

表 6 サポートされる e-Class サーバー

製品モデル	必要な BIOS - システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO2 / iLO3/ iLO4 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
ProLiant BL 10e	2003.02.17 (C)	4.00 A ² 7 Nov 2005	Microsoft Windows 2000	NA
ProLiant BL 10e G2	2003.02.17 (C)	4.00 A ² 7 Nov 2005	Microsoft Windows 2000	NA

¹ オペレーティングシステムの具体的なバージョンについては、HP の Web サイト <http://h10018.www1.hp.com/wwsolutions/index.html> (英語) に掲載されている ProLiant サポートマトリックスを参照してください。

² [HP ProLiant BL e-Class Integrated Administrator](#)

表 7 サポートされる p-Class サーバー

製品モデル	必要な BIOS - システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO2 / iLO3/ iLO4 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
Integrity BL60p	01.70	H.03.21	HP-UX	NA
ProLiant BL20p	2004.05.01 (14 May 2004)	1.70 以上	Windows および Linux	7.10 以上
ProLiant BL20p G2	4.09 (104-09/16/2004)	1.70 以上	Windows および Linux	7.10 以上
ProLiant BL20p G3	2006.02.14 (25 May 2006)	1.80 以上	Windows および Linux	7.10 以上
ProLiant BL20p G4	2007.11.13 (A) (17 Jan 2008)	1.24 以上	Windows および Linux	7.50 以上
ProLiant BL25p		1.70 以上	Windows および Linux	7.20 以上
ProLiant BL25p G2	2007.09.23 (A) (4 Dec 2007)	1.24 以上	Windows および Linux	7.60 以上
ProLiant BL25xwp		1.88 以上	Windows および Linux	
ProLiant BL30p	2005.10.27 (21 Jun 2006)	1.70 以上	Windows および Linux	7.10 以上
ProLiant BL35p		1.70 以上	Windows および Linux	7.20 以上
ProLiant BL40p	2003.07.25 (12 Aug 2003)	1.70 以上	Windows および Linux	7.10 以上

表 7 サポートされる p-Class サーバー (続き)

製品モデル	必要な BIOS - システム ROM の最小バージョン	必要な Integrated Lights-Out (iLO) / iLO2 / iLO3/ iLO4 ファームウェアの最小バージョン	サポートされるオペレーティングシステム ¹	必要な ProLiant Support Pack (PSP) の最小バージョン Windows
ProLiant BL45p		1.70 以上	Windows および Linux	7.20 以上
ProLiant BL45p G2	2007.09.23 (A) (4 Dec 2007)	1.24 以上	Windows および Linux	7.60 以上

¹ オペレーティングシステムの具体的なバージョンについては、HP の Web サイト <http://h10018.www1.hp.com/wwsolutions/index.html> (英語) に掲載されている ProLiant サポートマトリックスを参照してください。

表 8 サポートされる c-Class インターコネクト/スイッチ

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
Cisco Catalyst ブレードスイッチ 3020 (c-Class BladeSystem 向け)	12.2(25)SEF1
HP BladeSystem c-Class Cisco Catalyst Blade Switch 3120G	IP Base IOS ファームウェアパッケージ ¹
HP BladeSystem c-Class Cisco Catalyst Blade Switch 3120X	IP Base IOS ファームウェアパッケージ ¹
Cisco MDS 9124e ファブリックスイッチ - c-Class BladeSystem 用	3.3(1a)
HP 1:10Gb Ethernet BL-c Switch	1.0.0
HP 1Gb Ethernet パススルーモジュール (c-Class BladeSystem 向け)	NA
HP 10Gb Ethernet BL-c スイッチ (c クラス BladeSystem 向け)	1.1.0
HP 1/10Gb Ethernet ブレードスイッチ (c クラス BladeSystem 用)	1.0.0
HP 1/10Gb バーチャルコネクタイイーサネットモジュール (c-Class BladeSystem 向け)	1.22
HP 1/10Gb-F バーチャルコネクタイイーサネットモジュール (c-Class BladeSystem 用)	1.22
HP 1/10Gb-F VC モジュール	NA
HP 3Gb SAS BL-c パススルーモジュール	NA
HP 4Gb ファイバチャネルバススルーモジュール (c-Class BladeSystem 向け)	NA
HP 4Gb バーチャルコネクタイファイバチャネルモジュール (c-Class BladeSystem 向け)	1.22
HP GbE2c Ethernet ブレードスイッチ - c-Class BladeSystem 用	2.0.4
HP GbE2c レイヤー 2/3 Ethernet ブレードスイッチ	2.0.4
HP Virtual Connect Flex-10 10Gb Ethernet モジュール for BladeSystem c-Class	2.25
HP Virtual Connect 8Gb ファイバチャネルモジュール (24 ポート)	NA
Brocade 8Gb SAN Switch for HP BladeSystem c-Class	NA

表 8 サポートされる c-Class インターコネクト/スイッチ (続き)

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
HP NC382m デュアルポート 1GbE BL-c アダプター	ブートコードバージョン 4.4.14 および MBA バージョン 4.4.16
QMH2562 8Gb FC for HP BladeSystem c-Class	4.04.04
HP NC532m デュアルポート 10GbE BL-c アダプター	ブートコードバージョン 4.5.10 および MBA バージョン 4.5.20
LPe 1205-HP 8Gb FC for c-Class	1.10a4
HP 3G SAS BL スイッチモジュール	NA

¹ IP Base IOS ファームウェアパッケージの詳細については、HP の Web サイト www.hp.com/jp を参照してください。

表 9 サポートされる e-Class インターコネクト/スイッチ

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
HP BladeSystem PC Blade スイッチ	1.1.1.4 Rev. A
HP ProLiant BL e-Class (C-GbE) インターコネクトスイッチ	2.1.6 A

表 10 サポートされる p-Class インターコネクト/スイッチ

製品モデル	ソフトウェア管理ファームウェアの最小バージョン
Brocade 4GB SAN Switch for HP p-class Blade system	v5.3.0d
Mcddata 4GB SAN Switch for HP p-class Blade system	6.4.0.07.00
HP ProLiant BL p-Class Cisco Gigabit Ethernet Switch Module	12.2(44)SE
HP ProLiant BL p-Class GbE Interconnect Switch Module	2.1.9
HP ProLiant BL p-Class GbE2 Interconnect Switch Module	3.2.3.0

2 CMS への HP SIM の初期インストール

システムの準備

ステップ 1 を実行して、CMS に HP SIM を新規インストールします。

1. **CMS をインストールして設定します。**
2. CMS で管理する予定のシステム上に、必要な管理ソフトウェアをインストールして設定します。詳細については、「[管理対象システムのセットアップ](#)」(31 ページ)を参照してください。
3. 各自の環境に合わせて HP SIM を設定します。詳細については、「[HP SIM の設定](#)」(34 ページ)を参照してください。

この手順では、システムが最小要件を満たしているかどうかを検証し、HP SIM のインストールの準備を行います。

システムの検証と準備を行うには、次のように操作します。

手順 1 システムの準備

1. システムが最小要件を満たしているかどうかを検証します。詳細については、「[システム要件](#)」(5 ページ)を参照してください。
2. ファイアウォールや Security-Enhanced Linux を無効にします。

多くの Linux ディストリビューションは、HP SIM の動作を妨害する可能性のある、ファイアウォール、SELinux (Security-Enhanced Linux) などのセキュリティレイヤーを自動的にインストールします。サポートマトリックスのコンフィギュレーションは、これらのオプションを有効にしない状態でテストされています。

注記: SELinux 環境を無効にしないで HP SIM のインストールを選択する場合は、操作を円滑にするために開く必要があります。SELinux ファイアウォールでのポートの有効化については、[ファイアウォール設定](#)を参照してください。

3. Oracle データベースを使用する場合、Oracle の提供元に問い合わせ手順を確認してください。

注記: HP SIM をインストールする前に、AL32UTF8 の Unicode 文字セットと AL16UTF16 の各国文字セットで Oracle データベースを作成する必要があります。NLS の長さは、BYTE に設定する必要があります。また、thin クライアント.jar ファイルの位置を指定する必要があります。HP SIM を使用するには、システムの再起動時に、Oracle データベースサービスと TNS (Transparent Network Substrate) リスナーサービスが起動していなければなりません。Oracle 自体が、Oracle データベースや TNS リスナーを自動的に起動することはありません。Oracle データベース管理者 (DBA) は、これらのサービスを設定して、サーバーのリセット時に再起動するようにしておく必要があります。これらのサービスの自動起動手順については、http://download-east.oracle.com/docs/html/A96167_01/post-inst.htm#sthref548 からアクセスできる Oracle のドキュメントを参照してください。このリンクにアクセスするには、登録が必要です。Oracle のインストールを管理する Oracle DBA はこの作業を実行する必要があります。

HP SIM をローカルシステムにインストールする前に、Oracle をインストールし、DBA 権限をもつデータベースユーザー名を作成してください。また、Oracle をリモートデータベースとして使用する場合、HP SIM を設定するには、データベースと、DBA 権限をもつユーザー名を用意しておく必要があります。新しく作成された Oracle データベース用に HP Systems Insight Manager を設定する方法については、「[HP SIM のインストール後に実行する作業 HP SIM](#)」(26 ページ)を参照してください。

4. HP SIM ソフトウェアをダウンロードします。ソフトウェアをダウンロードするには HP の Web サイト <http://www.hp.com/jp/hpsim> にアクセスし、ページ左上の [HP Systems Insight Manager] の下にある [**ダウンロード**] をクリックしてください。HP SIM の [**ダウンロード**]

ページが表示されます。HP SIM ダウンロード（英語サイト）リンクを選択して、英語のダウンロードページを表示します。**[Download HP Systems Insight Manager]** の下で、**[HP SIM-Linux]** を選択し、次に **[Download latest version of HP SIM-Linux]** を選択して製品全部をインストールします。

5. ファイルをダウンロードまたはコピーしたディレクトリに移動し、次のコマンドを使用して、ユーザーの権限を変更し、bin ファイルに対する実行許可を追加します。

```
chmod +x *.bin
```

または

```
chmod +x HPSIM*.bin
```

6. 次に示す必要な依存ソフトウェアがシステム上に存在することを確認し、インストールされていないソフトウェアがあればここでインストールします。

- a. 次のコマンドを実行して、SSH がインストールされているかどうかを確認します。

```
rpm -qa | grep ssh
```

SSH がインストールされていない場合、コマンドは結果を返しません。HP SIM のインストール作業を続行する前に、Linux オペレーティングシステムの CD から SSH をインストールしてください。

- b. 次のコマンドを実行して、SNMP がインストールされているかどうかを確認します。

```
rpm -qa | grep snmp
```

SNMP がインストールされていない場合、コマンドは結果を返しません。HP SIM のインストール作業を続行する前に、Linux オペレーティングシステムの CD から SNMP をインストールしてください。

- c. C++ 標準ライブラリ（compat-libstdc++-7.3）がインストールされていることを確認します。

```
rpm -qa | grep compat
```

C++ 標準ライブラリがインストールされていない場合、コマンドは結果を返しません。HP SIM のインストール作業を続行する前に、Linux オペレーティングシステムの CD から C++ 標準ライブラリをインストールしてください。

- d. Linux glibc ライブラリがインストールされていることを確認します（glibc は、多くの Linux ディストリビューションに付属する C ライブラリです）。

```
rpm -qa | grep glib
```

Linux glibc ライブラリがインストールされていない場合、コマンドは結果を返しません。HP SIM のインストール作業を続行する前に、Linux オペレーティングシステムの CD から Linux glibc ライブラリをインストールしてください。

7. オプションの手順：CMS 上で Firefox ブラウザーを使用する予定であれば、Firefox 3.5 以上がインストールされていることを確認します。インストールされているバージョンを調べるには、Firefox ブラウザーを開いて、**[ヘルプ]**→**[Firefox について]**を選択します。

注記： Firefox は CMS の必須ソフトウェアではありません。このソフトウェアは、任意のネットワーククライアントから HP SIM へのアクセスに使用できません。Linux の管理対象ノードに、Firefox 3.5 以降をインストールします。

ソフトウェアのインストールと設定

HP SIM は、自動でインストールすることも手動でインストールすることもできます。自動インストールは、.bin ファイルを実行して、hpsmdb（PostgreSQL の HP SIM プライベート版）と HP SIM を自動インストールします。ユーザーの操作はほとんど必要ありません。手動インストールでは、ファイルの解凍および hpsmdb と HP SIM のインストールのための独立した手順をユーザーが実行する必要があります。インストールした HP SIM で Oracle データベース

を使用する場合は、手動インストールをおすすめします。HP SIM をインストールするには、依存ソフトウェアである hpsmdb ソフトウェアもインストールする必要があります。

HP SIM の自動インストール

hpsmdb とともに HP SIM をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
/HPSIM-Linux*.bin
```

注記: 権限の設定については、[ステップ 5](#)を参照してください。

HPSIM-Linux*.bin ファイルは、RPM (RPM Package Manager) ファイルを抽出して、まず hpsmdb をインストールし、続いて、HP SIM をインストールします。

注記: インストールが完了したら、オペレーティングシステムからログアウトして、ログインしなおしてください。これにより、すべての適切なファイル実行許可およびシステム環境が設定されます。

注記: HP Linux VCRM は、HP SIM および HP SMH と一緒に自動でインストールされます。低いバージョンがあらかじめインストールされている場合、インストーラーは Linux VCRM および HP SMH の自動アップグレードを実行します。

注記: Linux への VCRM のインストールは、HP SIM 経由でのみサポートされます。

HP SIM の初期セットアップ手順を完了するには、「[HP SIM のインストール後に実行する作業 HP SIM](#)」(26 ページ)を参照してください。

HP SIM の手動インストール

1. .bin ファイルを展開して .rpm ファイルを取り出します。次のコマンドを実行して、.bin ファイルの実行権を含むように権限を設定します。

```
chmod u+x HPSIM-Linux_6.x.bin --noexec --target mxserver
```

注記: 権限の設定については、[ステップ 5](#)を参照してください。

2. mxserver ディレクトリに移動するには、次のコマンドを実行します。

```
cd mxserver
```

注記: データベースとして hpsmd を使用する場合は、引き続き[ステップ 3](#)~[ステップ 5](#)を実行してください。Oracle を使用する場合は、[ステップ 6](#)に移動してください。

3. hpsmdb データベースをインストールします。各自の環境に適した .rpm ファイルを以下の順番で実行してください。

注記: rpm -i hpsmdb-*.rpm コマンドは、システムに hpsmdb をインストールします。

- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 以降

```
rpm -ivh hpsmdb-sles11-*.i586.rpm
```
 - 64 ビット版 SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 以降

```
rpm -ivh hpsmdb-sles11-*.x86_64.rpm
```
-

注記: SUSE 9 を HP SIM の古いバージョンとともに使用している場合、ユーザーはアップグレード (SUSE 10 または SUSE 11) する必要があります。

4. hpsmdb のステータスが running となっていることを確認します。
 - Red Hat Enterprise Linux の場合 (全バージョン)

注記: デフォルトでは、**[hpsmdb]** サービスは、INIT 3 および 5 レベルで動作するように設定されます。

- a. `serviceconf` コマンドを実行します。サービス設定ウィンドウが表示されます。

注記: CLI プロンプトから実行する場合、`serviceconf` ではなく `ntsysv` コマンドを使用してください。

- b. **[hpsmdb]** エントリーまでスクロールダウンします。
- c. チェックボックスをオンにして変更内容を保存し、サービスを開始します。
- d. コマンドラインから `hpsmdb` を起動するには、次のコマンドを実行します。

```
/etc/rc.d/init.d/hpsmdb start
```

または

```
/etc/init.d/hpsmdb start
```

- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 以降の場合：
 - a. 次のコマンドを実行して、ステータスを確認します。

```
/etc/init.d/postgresql status
```
 - b. 次のコマンドを実行して、`hpsmdb` がスタートアップ時に起動するように設定します。

```
chkconfig hpsmdb 345
```
 - c. Red Hat Linux または SUSE Linux の任意のバージョンで、ステータスが `unused` の場合、次のコマンドを実行してデーモンを起動します。
 - SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 以降の場合：

```
/etc/init.d/hpsmdb start
```
 - Red Hat Enterprise Linux の場合（全バージョン）

```
/etc/rc.d/init.d/hpsmdb start
```

または

```
/etc/init.d/hpsmdb start
```

注記: OpenSSH がインストールされていないシステム、または購入版の SSH がインストールされているシステム上に、HP SIM をインストールする場合は、`rpm` に `--nodeps` オプションを付加する必要があります。

たとえば、`rpm --nodeps -ivh`（その後に `rpm` ファイル名）のように入力します。

5. データベースとして `hpsmdb` を使用し、`hpsmdb` が正しく設定され稼動している場合、次のコマンドにより、`.rpm` ファイルを使用して HP SIM をインストールしてください。

```
rpm -ivh hpsim*.rpm
```

6. データベースとして Oracle を使用する場合は、次のコマンドにより、`.rpm` ファイルを使用して HP SIM をインストールしてください。

```
rpm -ivh hpsim-C.6.x.rpm --nodeps
```

7. Linux VCRM をインストールする場合は、次のコマンドを実行します。 `rpm -ivh cpqsrhmo-*.linux.rpm`

注記: Linux VCRM をインストールする前に、必ず、HP SMH をインストールしてください。

HP SIM のインストール後に実行する作業 HP SIM

手順 2

1. データベースに Oracle を使用する場合はステップ 2 に進み、hpsmdb を使用する場合はステップ 3 に進んでください。
2. Oracle データベースの場合は、次のいずれかのコマンドを実行してください。

mxoracleconfig

このコマンドは /opt/mx/bin にあります。このコマンドを実行してから、次のステップに進んでください。このコマンドには、コマンドライン引数を付けて実行する場合と付けないで実行する場合があります。

mxoracleconfig

この場合は、使用する Oracle データベースに関する個別情報の入力を要求されます。

Host: Oracle サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

Port [1521]: 同じポート番号を入力して、**[Enter]** キーを押します。

Database name: データベース名を入力します。

Username: データベースのユーザー名を入力します。

Password: データベースのパスワードを入力します。

Oracle driver jar file: Oracle jar ファイルの位置をフルパスで入力します。

Force [N]: **[Enter]** キーを押します。

または

次に示すパラメーターをすべて指定して **mxoracleconfig** コマンドを使用することもできます。

```
mxoracleconfig -h hostname [-n port number] -d database name -u  
username -p password [-j driver jar file location] [-f ]
```

-h Hostname

Oracle のサーバーの完全 DNS 名または IP アドレス

-n Port number

Oracle インスタンスに接続するために使用するポート番号。デフォルトのポート番号は 1521 です。

-d Database name

データベースインスタンスの名前

-u Username

データベースのユーザー名

-p Password

ユーザー名に対応するデータベースパスワード

-j Driver file location

Thin ドライバーを含む .jar ファイルのフルパス名。HP SIM および JBoss で使用できるように、その .jar ファイルにクラスパスが設定されている場合は不要です。ドライバークラスをロードできない場合、mxoracleconfig はエラーを返します。HP SIM および JBoss で使用できるように、.jar ファイルにクラスパスが設定されている場合、mxoracleconfig は.jar ファイルの上書きはしません。

注記: デフォルトでは、**[ojdbc14.jar]** ファイルは、HP SIM とともに提供されるファイルではありません。

f Force flag to force a re-run

このコマンドは、通常、1回だけ実行されます。Oracle サーバー名やデータベースインスタンス名の入力ミスなどユーザーのミスが発生したときに再実行する場合は、このフラグを入力します。

注記: `mxoracleconfig` コマンドは、`mxinitconfig` コマンドの前に実行して、`mxinitconfig` がデータベースとして Oracle を使用するようにしなければなりません。

3. 次のコマンドを実行して、前提条件が満たされているかどうかをテストします。

```
/opt/mx/bin/mxinitconfig -l
```

ユーティリティの実行結果を調べて、すべてのサーバーコンポーネントが OK になっており、ユーティリティのすべてのタスクが適切に完了していることを確認します。

注記: HP SIM の初期化および設定プロセスを続行する前に、すべての警告メッセージを解決しておくことをおすすめします。[OK] をクリックして、警告を無視し作業を続けます。

4. 次のコマンドを実行して、HP SIM を初期化し設定します。

```
/opt/mx/bin/mxinitconfig -a
```

注記: アップグレードの初期化は、バックグラウンドで実行され、数分間で完了します。アップグレードが完全に終了したかどうかを確認するには、次のコマンドを実行してファイルを確認してください。

```
more /var/opt/mx/logs/initconfig.log
```

注記: HP SIM の以前のバージョンからアップグレードしたあと、既存の収集が予想外の結果を返す場合、アップグレード後 HP SIM を再起動していないのであれば、HP SIM サービスを停止してから再開すればこの問題を解決できます。

5. 次のコマンドを実行して、`mxdomainmgr`、`mxinventory`、および `mxdtf` の各デーモンが実行中であることを確認します。

```
ps -ef | grep mx
```

実行中でないデーモンがあれば、次のコマンドを実行して開始してください。

```
/opt/mx/bin/mxstart
```

6. オプションの手順：SNMP トラップを送信できるように、システムを設定します。

注記: この手順は、Linux のバージョンによって多少異なる場合があります。ファイルパスとファイル名がシステムにない場合、詳細については、Linux プロバイダーにお問い合わせください。

- a. 次のコマンドを実行して、SNMP がインストールされているかどうかを確認します。

```
rpm -qa | grep snmp
```

SNMP がインストールされていない場合、コマンドはコンポーネントリストを返しません。SNMP のインストールについては、Linux プロバイダーにお問い合わせください。

- b. 次のコマンドを実行して、Linux 用の ProLiant Support Pack に収録されている HP サーバー管理ドライバーとエージェントがインストールされているかどうかを確認します。

```
rpm -qa | grep hpasm
```

ドライバーおよびエージェントがインストールされていない場合、コマンドはコンポーネントリストを返しません。インストールされている場合は、次のコマンドを実行して、HP サーバー管理ドライバーとエージェントデーモンが実行されているかどうかを確認してください。

```
/etc/init.d/hpasm status
```

- c. HP サーバー管理ドライバーとエージェントデーモンが実行されている場合は、次のコマンドを使用して停止させます。

```
/etc/init.d/hpasm stop
```

注記: HP サーバー管理ドライバーとエージェントデーモンがインストールされていない場合、この手順と手順 g は省略してください。

- d. SNMP デーモンを停止させます。

```
/etc/init.d/snmpd stop
```

- e. 任意のテキストエディターを使用して `snmpd.conf` ファイルを編集します。

Red Hat Linux の場合、vi エディターでこのファイルを開くコマンドは、次のとおりです。

```
vi /etc/snmp/snmpd.conf
```

SUSE Linux Enterprise Server 10 SP3 および SUSE 11 の場合、vi エディターでこのファイルを開くコマンドは、次のとおりです。

```
vi /etc/snmp/snmpd.conf
```

- i. `trapsink` 行からコメント記号 (`#`) を削除して、CMS の IP アドレスを追加します。このシステムで、HP SIM アプリケーションが実行されています。

```
trapsink IPaddress
```

ここで、`IPaddress` は、CMS の IP アドレスです。

注記: `snmpd` がインストールされている場合は、`man snmpd` とタイプして、マンページをよく読み、`trapsink` パラメーターの設定方法を確認してください。

注記: `snmpd.conf` に `trapsink` エントリーがない場合は、次のコマンドを使用して手動で入力してください。

```
trapsink CMS IP
```

ここで、CMS IP はマシンの位置を示します。このマシンに、管理対象ノードからトラップを送信します。

- ii. 読み取り専用コミュニティに次の行が存在する場合は、次のように操作します。

```
community CommunityName IPaddress
```

この行を次のように変更します。

```
rocommunityCommunityName IPaddress
```

この行が存在しない場合は、次の行を追加して、読み取り専用コミュニティに CMS を手動で追加します。

```
rocommunity CommunityName IPaddress
```

ここで、`CommunityName` は CMS によって使用される SNMP コミュニティ名、`IPaddress` は CMS の IP アドレスです。

- iii. 変更内容をファイルに保存します。vi エディターを使用して変更内容を保存し、ファイルを閉じる場合、**Esc** キーを押し、`:wq!` と入力して、**Enter** キーを押します。

- f. 次のコマンドを実行して、SNMP デーモンを起動します。

```
/etc/init.d/snmpd start
```

- g. HP サーバー管理ドライバーとエージェントデーモンがインストールされている場合、システム上で次のように起動します。

```
/etc/init.d/hpasm start
```

Linux VCRM 機能の有効化

新規インストールの場合は、HP SIM がインストールされた後で Linux VCRM が自動インストールされます。ただし、VCRM サポートを有効にするには、前提条件として特定のパッケージをダウンロードしてインストールする必要があります。

注記: パッケージをインストールする前に、必ず、python バージョン 2.5 以上をインストールしてください。

次のパッケージをダウンロードしてインストールします。

1. jre-6u12-linux-i586.rpm パッケージを <http://www.java.com/en/> からダウンロードして実行します。
2. xalan-j_2_7_1-bin.zip ファイルを <http://xml.apache.org/xalan-j/> からダウンロードして解凍し、次の jar ファイルを /usr/java/jre1.6.0_12/lib/ext/ディレクトリにコピーします。
 - serializer.jar
 - xalan.jar
 - xercesImpl.jar
 - xml-apis.jar
3. rhino1_7R1.zip ファイルを https://developer.mozilla.org/en/Rhino_downloads_archive からダウンロードして解凍し、次の jar ファイルを /usr/java/jre1.6.0_12/lib/ext/ディレクトリにコピーします。
 - Js.jar
4. bsf-bin-2.4.0.tar.gz ファイルを <http://archive.apache.org/dist/jakarta/bsf/binaries/> からダウンロードして解凍し、次の jar ファイルを /usr/java/jre1.6.0_12/lib/ext/ディレクトリにコピーします。
 - bsf.jar
5. commons-logging-1.1.1-bin.zip ファイルを http://commons.apache.org/logging/download_logging.cgi からダウンロードして解凍し、次の jar ファイルを /usr/java/jre1.6.0_12/lib/ext/ディレクトリにコピーします。
 - commons-logging-tests.jar
 - commons-logging-api-1.1.1.jar
 - commons-logging-adapters-1.1.1.jar
 - commons-logging-1.1.1.jar
 - commons-logging-1.1.1-sources.jar
 - commons-logging-1.1.1-javadoc.jar

Linux VCRM の RPM は、対話形式ではありません。この RPM では、設定方法を示すメッセージが出力されるだけで、ユーザー入力のためのプロンプトは表示されません。

HP Linux VCRM を設定するには、root ユーザーで **vcrepositoryconfig.sh** スクリプトを実行します。このスクリプトは、**/opt/hp/vcrepository/etc/**で入手できます。-R または-r オプションを指定してスクリプトを実行し、レポジトリ機能を有効にしてレポジトリフォルダーを設定します。

注記: CMS が Linux VCRM に対応付けられていれば、ソフトウェア/ファームウェアタスクを Linux ターゲットシステムのみを展開して、Windows システムを対象から外すことができます。

次のステップ

CMS で管理する予定のシステム上に、必要な **Insight マネジメント エージェント** をインストールして設定します。次に、HP SIM の初期セットアップ手順を実行します。初期セットアップ手順では、**管理対象システム** の追加、**ユーザー** の追加、**権限** のセットアップ、イベント処理の設定などを行います。詳細については、「**管理対象システムのセットアップ**」(31 ページ) を参照してください。

Firefox または Internet Explorer を使用して http://<IP_Address>:280/ にアクセスし、HP SIM の **グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI)** を起動します。

注記: 完全な設定権限があるユーザーが最初に HP SIM にログインすると、HP SIM の登録ウィンドウとファーストタイム ウィザードが表示されます。画面の指示に従って HP SIM を登録するか、後で登録する場合は、**[後で登録]** ボタンをクリックします。ご使用の HP SIM システムがインターネットに接続されていない場合は、インターネットにアクセスできる別のシステムを使用して HP の Web サイト <http://h20293.www2.hp.com/portal/swdepot/displayProductInfo.do?productNumber=HPSIM-LIC> (英語) にアクセスして、登録を行いコードを入手できます。これにより、HP SIM アプリケーションに対して登録されたことを確認できます。また、以降に登録の指示が表示されなくなります。ファーストタイム ウィザードは、HP SIM の初期セットアップのうち基本的な設定のみを行います。詳細については、<http://www.hp.com/jp/hpsim> を参照してください。

3 管理対象システムのセットアップ

ステップ 2 を実行して、必要な管理ソフトウェアをインストールし、設定してください。

1. CMS をインストールして設定します。詳細については、「[CMS への HP SIM の初期インストール](#)」(22 ページ)を参照してください。
2. **CMS で管理する予定のシステム上に、必要な Insight マネジメント エージェントをインストールして設定します。**
3. 各自の環境に合わせて HP SIM を設定します。詳細については、「[HP SIM の設定](#)」(34 ページ)を参照してください。

管理対象システムのセットアップには、必要な管理ソフトウェアのインストールが含まれます。インストールする管理ソフトウェアは、管理対象システムのタイプによって異なります。

- Linux
- ストレージシステム
- Windows システム - <http://www.hp.com/jp/hpsim> を参照してください。
- HP-UX システム (<http://www.hp.com/jp/hpsim> を参照)

Linux システムでの ProLiant または Integrity Support Pack の初期インストール

Linux システムの場合は、Linux 展開ユーティリティを使用して、ローカルシステムを対象にあらかじめ設定したコンポーネントを含む最新のサポートパックをインストールします。Linux 展開ユーティリティを使用した、サポートパックのインストールの詳細については、HP の Web サイト <http://www.hp.com/servers/psp> (英語)を参照してください。

管理対象ストレージシステムのセットアップ

SMI-S (Storage Management Initiative Specification) は、ストレージネットワークとストレージデバイスの相互運用可能な管理を実現する SNIA (Storage Networking Industry Association) 規格です。HP SIM は、この規格を使用して、サポートする**ストレージシステム**を検出および管理します。

HP SIM がストレージシステムを検出するには、そのストレージシステムの **WBEM SMI-S プロバイダー**をインストールして、設定しておく必要があります。プロバイダーをインストールしておく必要のあるストレージデバイスには、ファイバーチャネルディスクアレイ、スイッチ、テープライブラリ、ホスト (ファイバーチャネルホストバスアダプターを取り付け済み) などがあります。

HP SIM による各デバイスのサポートに関する最新情報は、HP の HP SIM SMI-S プロバイダーの Web ページ <http://www.hp.com/go/hpsim/providers> (英語)で確認してください。この Web ページでは、SMI-S プロバイダーの入手、インストール、および設定に関する情報も提供します。

SMI-S プロバイダーのインストール

各ストレージベンダーは、提供するストレージシステムの **SMI-S プロバイダー**およびインストール手順を用意しています。上記の Web ページでは、SMI-S プロバイダーの入手方法に関する情報を提供しています。SMI-S プロバイダーの詳細については、ストレージベンダーの Web サイトを参照するかまたはベンダーの担当者に問い合わせてください。各ストレージシステムについて、次の操作を行います。

1. 該当する SMI-S プロバイダーがインストールされていることを確認します。
2. インストールされていない場合は、入手し、ベンダーの手順に従ってインストールしてください。

SSL の確認

HP SIM では、SMI-S プロバイダーがサポートするストレージシステムを検出および管理するために、各 SMI-S プロバイダーに対して SSL ([Secure Sockets Layer](#)) が有効になっていなければなりません。各 SMI-S プロバイダーについて、SSL が有効になっていることを確認します。

SMI-S プロバイダーの設定

SMI-S プロバイダーのポート番号やパスワードを変更しなければならない場合があります。プロバイダーのマニュアルを参照して、変更してください。

たとえば、同じホスト上に 2 つの CIMOM がある場合、これらの CIMOM を設定して、CMS との通信に別々のポートを使用するようにしなければなりません。

ストレージシステム検出のための HP SIM の設定

各ストレージシステムの SMI-S プロバイダーのインストールと設定を確認したら、次のように操作して、ストレージシステムを検出できるように HP SIM を設定します。

1. [グローバルプロトコル設定] ページの [デフォルト WBEM 設定] セクションに、各プロバイダーの SMI CIMOM のユーザー名とパスワードを入力します。
2. [システム自動検出] タスクまたは [新規検出] タスクに各 SMI CIMOM の IP アドレスを追加します。詳細については、<http://www.hp.com/jp/hpsim> を参照してください。

HP SIM は、次の自動検出タスクの後で、ストレージシステムを検出します。ストレージシステムをただちに検出する場合は、<http://www.hp.com/jp/hpsim> の「検出タスクの実行」セクションの説明に従って、検出タスクを実行してください。

RHEL 6.0 のインストール手順

RHEL 6.0 を正しくインストールするには、前提条件として、この項に掲載されているバージョン/パッケージを遵守してください。

注記: HP バージョン コントロール エージェントがターゲットシステムで使用されていない場合、システムに対するソフトウェア/ファームウェアアップグレードタスクを最適な状態で展開するにはこれらのライブラリが必要です。

- `lm-sensors-libs-3.1.1-10.el6.<アーキテクチャー>.rpm`
- `net-snmp-libs-5.5-27.el6.<アーキテクチャー>.rpm`
- `net-snmp-5.5.27.el6.<アーキテクチャー>.rpm`
- `kernel-headers-2.6.32-71.el6.<アーキテクチャー>.rpm`
- `redhat-rpm-config-9.0.3-25.el6.noarch.rpm`
- `kernel-devel-2.6.32-71.el6.<アーキテクチャー>.rpm`
- `rpm-build-4.8.0-12.el6.<アーキテクチャー>.rpm`
- `gcc-4.4.4-13.el6.<アーキテクチャー>.rpm`
- `libuuid-2.17.2-6.el6.i686.rpm`
- `freetype-2.3.11-5.el6.i686.rpm`
- `libSM-1.1.0-7.1.el6.i686.rpm`
- `libICE-1.0.6-1.el6.i686.rpm`
- `libXi-1.3-3.el6.i686.rpm`
- `libX11-1.3-2.el6.i686.rpm`
- `libXext-1.1-3.el6.i686.rpm`
- `libXcb-1.5-1.el6.i686.rpm`

- libXau-1.0.5-1.el6.i686.rpm
- libXrender-0.9.5-1.el6.i686.rpm
- libXrandr-1.3.0-4.el6.i686.rpm
- libXfixes-4.0.4-1.el6.i686.rpm
- libXcursor-1.1.10-2.el6.i686.rpm
- fontconfig-2.8.0-3.el6.i686.rpm
- expat-2.0.1-9.1.el6.i686.rpm
- expect-5.44.1.15-2.el6.<アーキテクチャー>.rpm
- zlib-1.2.3-25.el6.i686.rpm
- libstdc++-4.4.4-13.el6.i686.rpm
- net-snmp-5.5-27.el6.<アーキテクチャー>.rpm

また、ソースからビルドされた RPM のビルドディレクトリが、ビルドを行ったユーザーの名前に基づき変更されています。RHEL 6 では、ユーザーが root でログインした場合、ディレクトリは /root/rpmbuild/RPMS/ です。root 以外のユーザーの場合、ディレクトリは /\$USER/home/rpmbuild/RPMS/ です。

注記: この項は、最低限必要なバージョン/パッケージが掲載されています。新しいバージョン/パッケージを使用してもかまいません。

4 HP SIM の設定

ステップ 3 を実行し、各自の環境に合わせて HP SIM を設定します。

1. CMS をインストールして設定します。詳細については、「[CMS への HP SIM の初期インストール](#)」(22 ページ)を参照してください。
2. CMS で管理する予定のシステム上に、必要な Insight マネジメント エージェントをインストールして設定します。詳細については、「[管理対象システムのセットアップ](#)」(31 ページ)を参照してください。
3. 各自の環境に合わせて HP SIM を設定します。詳細については、「[ファーストタイム ウィザードによる HP Systems Insight Manager の設定](#)」(34 ページ)、「[\[オプション\]メニューによる HP SIM の設定](#)」(35 ページ)、または「[Linux 管理対象システムの手動セットアップ](#)」(37 ページ)を参照してください。

ファーストタイム ウィザードによる HP Systems Insight Manager の設定

HP SIM の初期セットアップでは、HP SIM CMS の初期設定、ならびに管理対象システムのセットアップ、[検出](#)の設定、イベント処理の設定、ユーザーの追加、認証の定義などを正しい順序で行うために、ファーストタイム ウィザードを使用します。初期セットアップを開始するには、「[管理対象システムのセットアップ](#)」(31 ページ)の説明に従って、CMS のインストールを完了しておく必要があります。

ファーストタイム ウィザードは、管理者権限があるユーザーが最初に HP SIM にサインインするときに、自動的に起動します。HP SIM のインストールに使用された管理者アカウントが、管理者の初期アカウントです。ウィザードが完了する前にキャンセルすると、管理者権限があるユーザーが次にサインインする際に再び起動します。**[今後自動的にこのウィザードを表示しない]** チェックボックスを選択して **[キャンセル]** をクリックすると、ウィザードは取り消され、それ以後は自動起動しなくなります。**[オプション]** → **[ファーストタイム ウィザード]** を選択すると、ウィザードを手動で起動できます。

ファーストタイム ウィザードは、CMS で設定を行う際に役立ちます。設定が完了したら、**[次へ]** をクリックして、ファーストタイム ウィザード設定手順を続けます。ファーストタイム ウィザードでは、ユーザーが **[概要]** ページで **[完了]** をクリックするまでは、変更は適用されません。

注記: Firefox のデフォルト設定では、ファーストタイム ウィザードをブロックします。ファーストタイム ウィザードを表示するには、Firefox では、ポップアップブロックを無効にする必要があります。

次に、ファーストタイム ウィザードの設定画面について簡単に説明します。

● イン트로ダクション

ファーストタイム ウィザードの目的を説明します。ファーストタイム ウィザードをキャンセルすることや、管理者権限があるユーザーがサインインしたときにウィザードが自動的に起動しないようにすることができます。

● 管理環境

CMS により管理されるすべてのオペレーティングシステムを示します。ここでの選択により、選択される管理環境だけを対象に HP Systems Insight Manager が収集、ツール、およびレポートを表示するように設定できます。

このページは、Ignite サーバーの IP アドレス、サインイン認証情報など、各 TDEF 選択に関する必要な詳細情報も表示します。

● [システム自動検出]

ウィザードを使用して、検出を有効化し、検出スケジュールを設定し、検出したいシステムの IP アドレス範囲またはホスト名を入力します。検出は、HP SIM が、ネットワーク上

のシステムを検出および識別し、その情報を使ってデータベースを作成するプロセスです。データの収集およびシステムヘルスステータスの追跡を行うには、システムを検出する必要があります。

- **認証：システム自動検出**

ウィザードを使用して、検出タスクのサインイン認証および SNMP 認証を設定します。

- **管理対象システムの設定**

管理対象システムの検出時に、WBEM および WMI、SNMP、SSH アクセスと信頼関係を設定して、管理対象システムを設定します。

- **WBEM/WMI Mapper プロキシ**

Windows システムの管理対象システム情報を入手するには、Mapper プロキシシステムのホスト名とポート番号を入力します。

注記: このページは、Windows オペレーティングシステムの管理を選択した場合にのみ表示されます。

- **権限の昇格**

HP-UX、Linux、および ESX 管理対象システムで、非 root ユーザーでサインインした後、root レベルのツールを実行するために権限の昇格を要求する必要がある場合、権限の昇格を有効にします。

- **Email**

Email 通知を送信するために CMS が使用する Email 設定を入力します。CMS が特定のイベントを受信したときに HP Systems Insight Manager に Email を送信するよう指示する自動イベント処理タスクを設定できます。

- **概要**

すべてのファーストタイムウィザード設定と、設定変更またはファーストタイムウィザード終了のためのオプションを表示します。

ファーストタイムウィザードは、HP SIM の基本設定のみを行います。HP SIM ファーストタイムウィザードへの情報入力完了したら、**[概要]**で選択項目を確認し、**[終了]**をクリックして、設定を保存します。ファーストタイムウィザードの詳細については、HP SIM のヘルプシステムを参照してください。

[オプション] メニューによる HP SIM の設定

[オプション] メニューを使用して HP SIM を設定する場合、管理対象システムについて次の項目を設定する必要があります。

1. プロトコル設定の指定

プロトコル設定により、HP SIM が管理対象システムと通信する方法が定義されます。プロトコル設定を行うには、**[オプション]**→**[プロトコル設定]**→**[グローバルプロトコル設定]**を選択します。

2. ユーザーとユーザーグループの追加

注記: (CMS) に追加されたユーザーは、<!--> 認証 <!--> がそのユーザーに対して設定されるまでは、システムの表示や管理を実行できません。

注記: HP-UX および Linux のコマンドラインツール (ls、df など) は、デフォルトで root として実行されます。セキュリティ上の理由により、意図しない機能がユーザーに許可されないように、これらのツールを特定のユーザーとして実行するようにしてください。

ユーザーを追加するには、**[オプション]**→**[セキュリティ]**→**[ユーザーおよび認証]**→**[ユーザー]**を選択し、続いて **[新規]**をクリックします。

ユーザーグループを追加するには、**[オプション]**→**[セキュリティ]**→**[ユーザーおよび認証]**→**[ユーザー]**を選択し、続いて **[新規]**をクリックします。

3. ツールボックスの追加

ツールボックスは、**ユーザー**がアクセスできるツールのセットを定義します。ツールボックスを追加するには、**[オプション]**→**[セキュリティ]**→**[ユーザーおよび認証]**→**[ツールボックス]**を選択し、続いて **[新規]**をクリックします。

4. 認証の追加

認証により、ユーザーは、システムを表示および管理するためのアクセスが可能になります。各認証は、ユーザーまたはユーザーグループ、ツールボックス、およびシステムまたはシステムグループを指定します。システムに対してどのツールを実行できるかは、割り当てられるツールボックスで指定されます。

それぞれのユーザーがどのシステムを管理するか、およびユーザーが管理対象システムに対して実行する権限がある**ツール**のセットはどれかを、慎重に計画することが重要です。システムに対してツールボックス認証を持たないユーザーは、そのシステムを表示または管理することができません。

認証は追加式です。ユーザーがシステムに対して Toolbox1 を認証されており、同じシステムに対して Toolbox2 も認証されている場合、そのユーザーには、そのシステムに対して Toolbox1 と Toolbox2 両方のすべてのツールが認証されます。同様に、**[すべてのツール]**ツールボックスについて認証されているユーザーには、そのシステムに対する他のツールボックス認証は不要です。これは、**[すべてのツール]**ツールボックスには、常にすべてのツールが含まれるためです。

認証を追加するには、**[オプション]**→**[セキュリティ]**→**[ユーザーおよび認証]**→**[認証]**を選択し、続いて **[新規]**をクリックします。

5. Email 設定の指定

Email 設定により、ユーザーは、特定イベントの発生時に Email による通知を受信できます。Email 設定を指定するには、**[オプション]**→**[イベント]**→**[自動イベント処理]**→**[Email の設定]**を選択します。

6. 自動イベント処理の設定

自動イベント処理の設定では、**イベント**を受信したときに HP SIM で自動実行するアクションを定義します。自動イベント処理をセットアップするには、**[オプション]**→**[イベント]**→**[自動イベント処理]**→**[新規タスク]**を選択します。

7. 検出の設定および実行

検出とは、HP SIM がネットワーク上のシステム検出およびシステム識別を実行し、その情報に基づいてデータベースを作成するプロセスを指します。検出を設定して実行するには、検出タスクを作成する必要があります。HP SIM には、1 つのデフォルト検出タスク（システム自動検出）が組み込まれています。ただし、特定のシステムを検出するために新しい検出タスクを作成できます。

検出を設定するには、**[オプション]**→**[検出]**を選択します。

8. WMI Mapper を設定します。

HP SIM で Windows システムを管理するには、Windows システムに Pegasus WMI Mapper サービスをインストールする必要があります。WMI Mapper を設定するには、**[オプション]**→**[プロトコル設定]**→**[WMI Mapper プロキシ]**を選択します。

[オプション] メニューの項目の詳細については、HP SIM のヘルプシステムを参照してください。

Linux 管理対象システムの手動セットアップ

HP SIM エージェントの設定および修復ツールを使用すると複数の Linux 管理対象システムを一度に設定できますが、管理対象システムを手動で個別に設定することもできます。

Linux 管理対象システムを手動で設定するには、各管理対象システムに対して次のように操作します。

手順 3

- SSH をインストールして設定します。
 - 次のコマンドを実行して、管理対象システム上に SSH がインストールされていることを確認します。

```
rpm -qa | grep ssh
```

インストールされていない場合は、Linux プロバイダーに SSH のインストール方法を問い合わせてください。
 - CMS で、SSH 生成パブリックキーを CMS から管理対象システムにコピーし、実行可能ユーザー（root または Administrator）の認証済みのキーファイルに配置します。
 - ① **重要:** 英語版以外の CMS では、administrator アカウント（administrator と正確に綴る）が CMS 上に存在すること、および作成された administrator アカウントに対して mxagentconfig が CMS で実行されていることを確認してください。
 - CMS コマンドプロンプトから **[SSH キーの管理]** ダイアログボックスを開きます。

```
mxagentconfig -a -n hostname -u username -p Password
```
 - [接続]** をクリックします。
- オプションの手順：SNMP トラップを送信できるように、システムを設定します。

注記: この手順は、Linux のバージョンによって多少異なる場合があります。ファイルパスとファイル名がシステムにない場合、詳細については、Linux プロバイダーに問い合わせてください。

- 次のコマンドを実行して、SNMP がインストールされていることを確認します。

```
rpm -qa | grep snmp
```

インストールされていない場合は、Linux プロバイダーに SNMP のインストール方法を問い合わせてください。
- HP SIM をインストールしているプラットフォーム上で、HP サーバー管理ドライバーとエージェントデーモンを、次のコマンドを使用して停止させます。

```
/etc/init.d/hpasm stop
```

注記: HP サーバー管理ドライバーとエージェントデーモンがインストールされていない場合、この手順と手順 F は省略してください。
- SNMP デーモンを停止させます。

```
/etc/init.d/snmpd stop
```
- 任意のテキストエディターを使用して snmpd.conf ファイルを編集します。

Red Hat Linux の場合、vi エディターでこのファイルを開くコマンドは、次のとおりです。

```
vi /etc/snmp/snmpd.conf
```

SUSE Linux Enterprise Server 10 の場合、vi エディターでこのファイルを開くコマンドは、次のとおりです。

```
vi /etc/snmp/snmpd.conf
```

- i. trapsink 行からコメント記号 (#) を削除して、CMS の IP アドレスを追加します。

trapsink IPaddress

ここで、*IPaddress* は、CMS の IP アドレスです。

- ii. 次の行を追加し、読み取り専用コミュニティに CMS を追加します。

rocommunity CommunityName IPaddress

ここで、*CommunityName* は CMS によって使用される SNMP コミュニティ名、*IPaddress* は CMS の IP アドレスです。

- iii. 変更内容をファイルに保存します。vi エディターを使用して変更内容を保存し、ファイルを閉じる場合、**Esc** キーを押し、:wq! と入力して、**Enter** キーを押します。

- e. SNMP デーモンを起動します。

/etc/init.d/snmpd start

- f. HP サーバー管理ドライバーとエージェントデーモンがインストールされている場合、システム上で次のように起動します。

/etc/init.d/hpasm start

5 HP SIM からのアップグレード

この章では、HP SIM 6.x 以降をアップグレードする手順について説明します。HP SIM のアップグレードを開始する前に、データベースへのアクセスに使うユーザー名とパスワードが有効であることを確認します。ユーザーがアップグレードを開始すると、HP SIM が以前にインストールされている HP SIM をチェックし、HP SIM と関連するすべてのサービスおよびデーモンを停止します。次に、CMS 上のファイルを上書きするかまたはファイルを CMS 上の適切な位置にコピーし、最後に、HP SIM および関連付けられたすべてのサービスを再開します。

Linux での HP SIM のアップグレード

HP SIM は、自動でアップグレードすることも手動でアップグレードすることもできます。自動インストールでは、.bin ファイルが実行され、前提条件が確認されたあとアップグレードが開始され完了します。手動インストールでは、ユーザーが、ファイル解凍と HP SIM アップグレードのための独立した手順を実行する必要があります。

注記: Systems Insight Manager 6.x 以上のアップグレードは、サポートされています。

手順 4 HP SIM のアップグレードのためのファイル解凍

1. .bin ファイルを展開して .rpm ファイルを取り出します。次のコマンドを実行して、.bin ファイルの実行権を含むように権限を設定します。

```
chmod u+x HPSIM-Linux_C.6.x or later .bin --noexec --target mxserver
```

注記: 権限の設定については、[ステップ 5](#)を参照してください。

2. mxserver ディレクトリに移動するには、次のコマンドを実行します。

```
cd mxserver
```

注記: データベースとして hpsmd を使用する場合は、引き続き[ステップ 3](#)～[ステップ 5](#)を実行してください。Oracle を使用する場合は、[ステップ 6](#)に移動してください。

3. hpsmdb データベースをインストールします。各自の環境に適した .rpm ファイルを以下の順番で実行してください。

注記: rpm -i hpsmdb-*.rpm コマンドは、システムに hpsmdb をインストールします。

- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 以降

```
rpm -ivh hpsmdb-sles11-*.i586.rpm
```
- 64 ビット版 SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 以降

```
rpm -ivh hpsmdb-sles11-*.x86_64.rpm
```

注記: SUSE 9 を HP SIM の古いバージョンとともに使用している場合、ユーザーはアップグレード (SUSE 10 または SUSE 11) を行う必要があります。

4. hpsmdb のステータスが running となっていることを確認します。

- Red Hat Enterprise Linux の場合 (全バージョン)

注記: デフォルトでは、[hpsmdb] サービスは、INIT 3 および 5 レベルで動作するように設定されます。

- a. serviceconf コマンドを実行します。サービス設定ウィンドウが表示されます。

注記: CLI プロンプトから実行する場合、`serviceconf` ではなく `ntsysv` コマンドを使用してください。

- b. **[hpsmdb]** エントリーまでスクロールダウンします。
- c. チェックボックスをオンにして変更内容を保存し、サービスを開始します。
- d. コマンドラインから `hpsmdb` を起動するには、次のコマンドを実行します。

```
/etc/rc.d/init.d/hpsmdb start
```

または

```
/etc/init.d/hpsmdb start
```

- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 以降の場合：
 - a. 次のコマンドを実行して、ステータスを確認します。

```
/etc/init.d/postgresql status
```
 - b. 次のコマンドを実行して、`hpsmdb` がスタートアップ時に起動するように設定します。

```
chkconfig hpsmdb 345
```
 - c. Red Hat Linux または SUSE Linux の任意のバージョンで、ステータスが `unused` の場合、次のコマンドを実行してデーモンを起動します。
 - SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 以降の場合：

```
/etc/init.d/hpsmdb start
```
 - Red Hat Enterprise Linux の場合（全バージョン）

```
/etc/rc.d/init.d/hpsmdb start
```

または

```
/etc/init.d/hpsmdb start
```

注記: OpenSSH がインストールされていないシステム、または購入版の SSH がインストールされているシステム上に、HP SIM をインストールする場合は、`rpm` に `--nodeps` オプションを付加する必要があります。

たとえば、`rpm --nodeps -ivh`（その後には `rpm` ファイル名）のように入力します。

5. `.rpm` ファイルを使用して、HP SIM をインストールします。

```
rpm -Uvh hpsim*
```

注記: アップグレードの初期化は、バックグラウンドで実行され、数分間で完了します。アップグレードが完全に終了したかどうかを確認するには、次のコマンドを実行してファイルを確認してください。

```
cat /var/opt/mx/logs/initconfig.log
```

注記: PostgreSQL を使用している HP SIM に `hpsmdb` が正常にインストールされると、HP SIM のアップグレードプロセスにより、HP SIM のデータが PostgreSQL から `hpsmdb` に自動的に移行されます。`hpsmdb` を正常にインストールできない場合、アップグレードされた HP SIM でも PostgreSQL が引き続き使用されます。

6. Oracle データベースを使用している場合は、HP Systems Insight Manager のアップグレード後に、次の操作を行います。
 - a. HP Systems Insight Manager を停止します。

- b. [installdir]/lib ディレクトリおよび [installdir]/jboss/server/hpsim/lib ディレクトリで ojdbc14.jar というファイルを探し、見つかった場合はすべて削除します。
 - c. Oracle 社の Web サイト http://www.oracle.com/technology/software/tech/java/sqlj_jdbc/index.html から新しいドライバーをダウンロードします。
 - d. JDBC ドライバーファイル (ojdbc14.jar) を [installdir]/lib ディレクトリおよび [installdir]/jboss/server/hpsim/lib ディレクトリにコピーします。
7. mxstop と mxstart を使用して HP SIM デーモンを再起動し、アップグレードを完了してください。

CMS での、HP SIM のインストールと初期化が完了しました。HP SIM を表示するには、Firefox、または Internet Explorer を使用して http://<IP_Address>:280/ にアクセスし、HP SIM の [グラフィカルユーザーインターフェイス \(GUI\)](#) を起動します。

8. HP SIM 6.x 以上にアップグレードしたら、HP SIM にサインインし、日単位デバイス識別タスクを実行して、すべての関連付けが正しく更新されているかどうか確認します。

注記: 以前のリリースで設定した WMI Mapper プロキシノードがある場合は、日単位デバイス識別タスクを実行する前に、WMI Mapper ノードを再識別し、WMI Mapper のプロパティページが正常に動作していることを確認する必要があります。詳細については、「[HP SIM の設定](#)」(34 ページ) を参照してください。

システム識別 (毎日) タスクを実行するには、次のように操作します。

- a. **[タスク & ログ]**、**[スケジュールされたすべてのタスクの表示]**の順に選択します。**[スケジュールされたすべてのタスク]**ページが表示されます。
- b. **[日単位デバイス識別]**タスクを選択します。
- c. **[すぐに実行]**をクリックします。

注記: HP SIM 5.x では、HP SIM の前バージョンの **[監視ツール]** ツールボックスにある、一部のツールが削除されています。削除されたツールは、管理タイプの機能または管理レベルのファイルへのアクセス権限を、HP SIM の管理者以外のユーザーに与えるものです。以前のバージョンからアップグレードする場合、これらのツールが **[監視ツール]** ツールボックスに残っています。**[監視ツール]** ツールボックスおよび作成したその他のツールボックスの内容を確認して、バージョン 5.x で削除されたツールを削除するようにしてください。

HP SIM 6.x 以上からアップグレードする場合は、ツールリストには次のツールが含まれます。

表 11 使用できるツール

監視ツール	一般ツール
type	一般ツール
cat	一般ツール
find	一般ツール

手順 5 ツールの削除

1. 管理者権限があるユーザーで HP SIM にサインインします。
2. **[オプション]**、**[セキュリティ]**、**[ユーザーおよび認証]**の順に選択し、**[ツールボックス]** タブをクリックします。
3. **[監視ツール]**ツールボックスを選択します。
4. **[編集]**をクリックします。
5. **[ツールボックスの内容]**パネルで、削除するツールを選択して、**[<>]** ボタンをクリックします。
6. **[OK]** をクリックして保存します。

注記: HP SIM のアップグレード後、すべてのネットワークデバイス、ラック、およびエンクロージャーが正しく識別されるかどうかを確認するために、識別を実行します。**[オプション]**→**[検出]**の順に選択します。**[システムの識別]**ページが表示されます。詳細については、<http://www.hp.com/jp/hpsim> を参照してください。

6 HP SIM のアンインストール

Linux システムからの HP SIM のアンインストール

- △ **注意:** HP SIM を削除する前にデータベースの情報をバックアップしておかないと、HP SIM の削除後この情報は永久に失われます。

手順 6 HP SIM の削除

1. 次のコマンドを実行して、HP SIM デーモンを停止します。

```
/opt/mx/bin/mxstop
```

2. 次のコマンドを実行して、デーモンが停止したことを確認します。

```
ps -ef | grep mx
```

HP SIM デーモンのいずれかが実行されている場合、PID をメモし、次のコマンドでプロセスを強制終了させます。

```
kill -9 pid
```

ここで、pid はデーモンのプロセス ID です。たとえば、次のファイルを作成します。

```
kill -9 3456
```

3. 次のコマンドを実行して、HP SIM ソフトウェアを削除します。

注記: HP SIM に依存する登録済みプラグインがインストールされている場合、アンインストールしないでください。HP SIM に依存する登録済みプラグインがインストールされている場合は、まず、それらのプラグインをアンインストールしてください。

```
rpm -qa | grep hpsim | xargs rpm -e
```

4. 次のコマンドを実行して、hpsmdb を停止します。

- Red Hat の場合 :

```
/etc/rc.d/init.d/hpsmdb stop
```

- SUSE の場合 :

```
/etc/init.d/hpsmdb stop
```

5. ここで、次のコマンドを実行して hpsmdb データベースを削除します。

```
rpm -qa | grep hpsmdb | xargs rpm -e
```

hpsmdb に依存するパッケージがインストールされている場合は、まず、それらのパッケージをアンインストールしてください。また、次のオプションを指定して rpm を実行することもできます。

```
rpm -qa | grep postgresql | xargs rpm -e --nodeps
```

HP SIM ディレクトリおよび PostgreSQL ディレクトリを削除するには、次のコマンドを実行します。

```
rm -rf /var/opt/mx /etc/opt/mx /opt/mx /var/opt/hpsmdb/opt/hpsmdb
```

6. システムを再起動します。

7 設定オプション

HP SIM には、GUI からは使用できないが設定可能ないくつかのパラメーターがあります。これらのパラメーターは、CMS の設定ファイルを編集することで設定できます。

注記: すべての HP SIM パラメーターは、大半の状況に適した事前に定義済みの値に設定されています。デフォルト値を使用して問題が発生した場合にだけ、これらのパラメーターを変更する必要があります。

デフォルトでは、設定ファイルの主な格納場所は 2 つあります。

- /etc/opt/mx/config
- /opt/hpwebadmin/lib

これらのファイルのフォーマットは、Java プロパティファイルのフォーマットです。そのため、これらのファイルのキーは大文字と小文字を区別します。また、バックスラッシュ (\) は二重バックスラッシュ (\\) で指定する必要があります。Java プロパティファイルのフォーマットの詳細については、Web サイト <http://java.sun.com/> を参照してください。

この章では、次の設定オプションについて説明します。

- 「データ収集時の CPU 使用率」(44 ページ)
- 「GUI のタイムアウトポリシー」(44 ページ)
- 「Systems Insight Manager の監査ログ設定」(45 ページ)
- 「タスクの結果の設定」(46 ページ)

データ収集時の CPU 使用率

概要

データ収集タスクは、管理対象システムへの応答を待機する複数の計算およびデータベース操作を処理するために、多数のスレッドを並列して実行します。低速なシステムでは、CMS システムのプロセッサ速度や収集対象のシステム数に応じて、CPU が一時的に飽和状態になってしまうことがあります。そのため、Systems Insight Manager では CPU の使用量を減少させるためのいくつかのストラテジが提供されています。

実装

CMS でのデータ収集時に CPU 使用量を減少させるために、次のように対処しています。

- 1 度に収集対象とするシステム数を制限します。たとえば、システムのグループごとに個別のデータ収集タスクを作成し、それらが異なる時刻に実行されるようにスケジュールします。
- CMS 以外のシステム上のリモートデータベースを使用するように、CMS を設定します。データ収集時、CPU 負荷のかなりの部分がデータベースによって消費されます。このオプションは、Windows CMS だけでサポートされています。
- globalsettings.props ファイルの DataCollectionThreadCount パラメーターの値を小さくします。このパラメーターはデフォルトでは 3 に設定されています。この値を 2 または 1 に設定すると、データ収集タスクによって生じる CPU 負荷が低減しますが、タスクを完了するためにより長い時間が必要となります。

GUI のタイムアウトポリシー

概要

Systems Insight Manager は、2 通りの代替となるタイムアウトポリシーを提供しています。第 1 のタイムアウトポリシーは、Systems Insight Manager を使用してシステムステータスを監視

している環境向けで、監視タイムアウトポリシーと呼ばれます。第2のタイムアウトポリシーはより厳密で、非アクティブなユーザーをタイムアウトとして処理します。これは、アクティブタイムアウトポリシーと呼ばれ、Servicecontrol Manager で使用されているポリシーに似ています。

監視タイムアウトポリシー

監視タイムアウトポリシーは、ユーザーが Systems Insight Manager GUI を表示している Web ブラウザーウィンドウを開いている限り、そのセッションを存続させます。ブラウザーを閉じるか、別の Web ページに移動すると、タイムアウト期間のタイマーが始動します。デフォルトのタイムアウト期間は 20 分間です。離席などでユーザーがいない間にセッションが違法に使用されないように、パスワード保護されたスクリーンセーバなどのその他の手段を用いてセッションを保護する必要があります。

アクティブタイムアウトポリシー

アクティブタイムアウトポリシーは、リンクやボタンのクリックなど、ユーザーが GUI をアクティブに使用している間だけセッションを存続させます。バナーの表示や更新だけでは、セッションを存続させるには不十分です。非アクティブな場合、またはブラウザーを閉じたか、別のサイトへ移動した場合には、そのユーザーはタイムアウトになります。デフォルトのタイムアウト期間は 20 分間です。

実装

- タイムアウトポリシーを設定するには、`globalsettings.props` ファイルを編集します。2 つのモード間を切り替えたり、タイムアウト期間を変更したりできます。デフォルトのタイムアウトポリシーは監視タイムアウトポリシーです。次のように指定されている場合は、監視タイムアウトポリシーが有効です。

```
EnableSessionKeepAlive=true
```

アクティブタイムアウトポリシーを有効にするには、この値を **false** に変更します。

```
EnableSessionKeepAlive=false
```

- デフォルトのタイムアウト期間を変更するには、`web.xml` ファイルを編集します。このファイルのデフォルトの格納場所は、次のとおりです。

```
/opt/mx/jboss/server/hpsim/deploy/jbossweb-tomcat50.sar/conf/web.xml
```

`session-timeout` 要素を新しい値（分単位）に設定します。

```
<session-timeout>20</session-timeout>
```

Systems Insight Manager の監査ログ設定

概要

Systems Insight Manager の監査ログでは、複数の機能を設定できます。たとえば、データをログに記録するツール、および最大監査ログファイルサイズを指定できます。Systems Insight Manager 監査ログは `log.properties` ファイルで設定し、ログに記録するツールを有効または無効に設定する場合は、XML ツール定義ファイルで行います。

ツールの動作

XML ツール定義ファイルには、**単一システム対応**（SSA）コマンドツールと**マルチシステム対応**（MSA）コマンドツールのログを無効にするオプションがあります。コマンド要素のログ属性では、コマンドの結果を Systems Insight Manager ログファイルに出力するかどうかを指定します。コマンド出力はデフォルトでログに記録されます。

監査ログパラメーター

`log.properties` ファイルでは、次の監査ログパラメーターを設定できます。

- ファイル名
- ファイル拡張子

- 最大ファイルサイズ (MB)
- ロールオーバー名のファイル拡張子
- 監査ログに書き込む項目をキューに入れるために割り当てるメモリ量

監査ログの場所

監査ログの場所は、`path.properties` ファイルで設定できます。

実装

`log.properties` ファイルに加えた変更は、ログマネージャーデーモンまたはサービスを再起動するまでは有効になりません。Systems Insight Manager サービスを再起動します。

- △ **注意:** キューサイズを変更するときは、十分に注意する必要があります。キューサイズの設定値が大きすぎると、ログマネージャーにより大量のシステムメモリが消費される可能性があります。

注記: 監査ログファイルが最大サイズに達すると、ログファイルの拡張子が `MX_LOGROLLFILEEXT` に変更されて、新しいファイルへの書き込みが開始されます。前バージョンのファイルがすでに `MX_LOG_ROLLFILEEXT` 拡張子に変更されていた場合は、そのファイルは、監査ログファイルの自動ロールオーバーになります。ロールオーバーは、**タスク**の実行が完了するまで行われません。ただし、最大ファイルサイズを超えてから1時間が経過してもタスクが完了しない場合は、監査ログファイルは別のファイルにロールオーバーされます。

手順 7 Systems Insight Manager 監査ログファイルの位置の設定

1. `/etc/opt/mx/config` に `path.properties` という名前のファイルを作成します。
2. `path.properties` ファイルに次のエントリを追加します。 `LOG=/var/opt/mx/logs`

注記: `/var/opt/mx/logs` は、例として挙げたものです。このパスは、ユーザーによって定義されます。

3. Systems Insight Manager サービスを再開し、Systems Insight Manager デーモンを再起動します (`mxstop` および `mxstart`)。サービスを再起動すると、`path.properties` ファイルで指定したディレクトリに、`mx.log` という名前の新しいログファイルが作成されます。

タスクの結果の設定

Systems Insight Manager では、タスクが完了した後に、**[タスクの結果ページ]**でエントリを保持しておく期間を設定できます。

タスクライフタイムの長短

タスクの結果の中には、短期間しか保持されないものもあれば、長期間保持されるものもあります。タスクは、関連付けられたツールのタイプによって、1つまたはその他のカテゴリに分類されます。次のツールのタスクは、短期間しか保持されません。

- Web により起動されるツール
- コマンド出力を保存するために `-o` または `-o` オプションを使用して、`mxexec` コマンドラインから実行されたツール
- X-Window コマンドを実行するツール
- ツール定義で「`job-log`」フラグが無効として指定されているツール。次のものが含まれません。
 - ハードウェアステータスポーリング
 - データ収集

- システムの識別
- ソフトウェアステータスポーリング
- イベントの削除
- システムプロトコル設定
- 自動検出

このカテゴリのツールは、タスクの結果を出力しないか、タスクの結果が Systems Insight Manager の外部に保存されるか、またはタスクの結果に長期間留意する必要がないものです。その他のすべてのツールのタスクは、長期間タスクと見なされます。

頻繁にスケジュールされるタスク

スケジュールされたタスクのタスク結果の累計が一定数に達すると、タスク結果も **[タスクの結果ページ]** から削除できます。この設定は、デフォルトではタスクあたり 10 インスタンスです。結果ページ上の累計数が 10 を超えると、このスケジュールされたタスクのもっとも古いタスク結果が削除されます。

最終結果のタスク

タスク結果がスケジュールされたタスクの最終結果である場合、そのタスク結果は無期限に保持されます。たとえば、スケジュールされたタスクが無効になると、その最終結果が無期限に保持されます。そのタスクが有効になっても、追加のタスク結果が累計されるまでは、この最終結果が保持されます。

Systems Insight Manager インターフェイスを使用してタスク結果を設定するには、**[オプション]→[タスク結果設定]** を選択します。詳細については、Systems Insight Manager のヘルプページを参照してください。

短期間および長期間のタスクを手動で設定するには、`globalsettings.props` ファイルを編集します。

- 長いライフタイムのデフォルト値は 30 日間です。これを変更するには、次のパラメーターを編集します。

```
MX_JOB_MAX_COMPLETED_JOB_AGE=30
```

- 頻繁にスケジュールされるタスクのタスク結果は、10 インスタンスを超えると廃棄され始めます。これを変更するには、次のパラメーターを編集します。

```
MX_JOB_MAX_COMPLETED_JOBS_PER_TASK=10
```

注記: タスク結果の 10 インスタンスまでの制限は、ツール定義で「job-log」フラグが有効なスケジュールされたタスクに適用されます。「job-log」フラグが無効なツールのスケジュールされたタスクは、タスク結果が 1 インスタンスまでに制限されます。この値は設定できません。

- スケジュールされたタスクの場合、デフォルトでは、最終タスク結果が無期限に保持されます。

手順 8 複数のジョブの保持

1. Systems Insight Manager を停止します。
2. `globalsettings.props` を編集して、次を追加します。

```
MX_JOB_MIN_COMPLETED_JOBS_PER_TASK=n
```

ここで、*n* は、保持するタスク結果の数字です。

3. Systems Insight Manager サービスを起動して、変更を反映します。

8 トラブルシューティング

- 質問と回答 8.1 「ブラウザーの問題」
- 質問と回答 8.2 「GUI の問題」
- 質問と回答 8.3 「インストールの問題」
- 質問と回答 8.4 「サインインの問題」
- 質問と回答 8.5 「GUI の問題」

8.1 ブラウザーの問題

- 8.8.1.1 **Linux CMS でメニュー項目にアクセスする際、一部のメニュー項目でページが空白になる。**

解決策：Firefox を使用してこの問題が発生する場合は、表示されているページで [戻る] をクリックしてください。メニュー項目が更新されます。

8.2 GUI の問題

- 8.8.2.1 **システムリスト内のデバイスや、左側の [システムおよびイベントリスト] 領域など、GUI の一部が使用中の Linux システムで表示されない。**

解決策：インストールされているものをすべて削除して再インストールしてください。新しいバージョンをインストールする前に、前バージョンの PostgreSQL または HP SIM のシステムからのアンインストールに失敗した可能性があります。

- 8.8.2.2 **Insight マネジメントエージェントがインストールされている Linux または HP-UX の CMS にアクセスすると、Insight Management Advisor をクリックした時点で [セキュリティアラート] ダイアログボックスが表示される。**

解決策：OpenSSL の設定が正しく行われていないため、マネジメント HTTP サーバーの証明書が、HP SIM の証明書で上書きされていません。Linux では、OpenSSL は、必ず /usr/bin/ディレクトリにインストールしてください。HP-UX では、OpenSSL は、必ず、/opt/openssl/bin/ディレクトリにインストールしてください。OpenSSL を正しいディレクトリにインストールしてから、新しい HP SIM 証明書を作成すると、この問題が解決します。

8.3 インストールの問題

- 8.8.3.1 **インストール中にシステムが再起動すると、インストールによってブラウザーが起動される。Internet Explorer に、ローカルホストとの接続を確立できなかったことを知らせるメッセージが表示される。ブラウザーがサービスの開始以前に起動される。**

解決策：URL フィールドにカーソルを置いて **Enter** キーを押し、再度 URL にアクセスしてください。アプリケーションがブラウザーにロードされるまで続けてください。

`ps -ef | grep mx` コマンドを実行して、サービスが開始されているかどうかを確認してください。[mxdtf]、[mxdomainmgr]、および [mxinventory] サービスが実行されていない場合は、HP SIM は動作していません。

- 8.8.3.2 **mxinitconfig -a コマンドの実行中、システムが再起動する。**

解決策：mxinitconfig -r コマンドを実行して、HP SIM の設定を解除したあとで、mxinitconfig -a を実行して再設定してください。

- 8.8.3.3 **インストール時に次のエラーメッセージが表示される。**

[error: %pre(hpsim-6.x.00.00-1.i386) scriptlet failed, exit status 255]

[error: install: %pre scriptlet failed (2), skipping hpsim-6.x.00.00-1]

解決策：サポートされていない IPF システムに対して手動インストールを試みません。Linux IPF への HP SIM CMS のインストールはサポートされていません。

- 8.8.3.4 **自動インストール実行中の、必須条件のチェックのデータベースの設定段階で、次のエラーメッセージが表示される。**

**[ERROR - PostgreSQL script returns an error, see the following log for detail:
/var/opt/mx/logs/PgSQL_Config.log]**

PgSQL_Config.log の内容を表示すると、次の行を確認できる。

[Starting PostgreSQLpg_ctl: postmaster does not start...failed]

[No PostgreSQL RPM]

解決策：次のように操作して、PostgreSQL サービスを手動で開始してください。

手順 9 PostgreSQL サービスの手動での起動

1. /etc/init.d ディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
./postgresql stop
```
2. `postgres` ユーザーとしてログインします (su postgres)。
3. 次のコマンドを実行します。

```
postmaster -D /usr/local/pgsql/data
```


postmaster および PostgreSQL が起動します。
4. `mxinitconfig -a` を実行します。初期設定が正常に完了し、サービスが開始されます。

8.4 サインインの問題

8.8.4.1 Internet Explorer 6.0 SP2 以降を使用して HP SIM からブラウズして、HP SIM または管理対象システムにサインインできない。

理由 1：システム名にアンダースコアが入っていると、Internet Explorer で認証 Cookie が正常に動作しません。

解決策：システムの名前にアンダースコアが入っている場合は、システムの IP アドレスを使用してください。名前の代わりに IP アドレスを使用してシステムへのリンクを作成するように、HP SIM を設定します。以下の手順に従ってください。

手順 10 IP アドレスを使用したシステムへのリンクの作成

1. HP SIM にアクセスしてサインインします。
2. **[オプション]→[セキュリティ]→[システムリンクの設定]**を選択します。[システムリンク設定] ページが表示されます。
3. **[システムの IP アドレスを使用]**を選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

注記： 名前の代わりに IP アドレスを使用すると、管理対象システム証明書の名前がリンク内の名前と一致しない場合、セキュリティアラートが表示される場合があります。管理対象システムのデフォルト証明書では、IP アドレスでなく、システム名が使用されています。

理由 2：管理対象システムでは、Internet Explorer 6.0 のプライバシーポリシー設定によって、管理対象システムからの認証 Cookie がブロックされます。

解決策 2A：（推奨）インターネットゾーンからシステムを削除します。プライバシーポリシーは、ブラウザーの **[インターネットゾーン]**にあるシステムだけに影響するので、インターネットゾーンからシステムを削除すると、プライバシーポリシーがそのシステムに影響しなくなります。ブラウザーのプライバシーポリシー設定を変更するには、Internet Explorer ブラウザーのメニューで、**[ツール]→[インターネットオプション]**の順に選択し、**[プライバシー]**タブをクリックします。次の**いずれか**の方法でプライバシー設定を変更します。

- 名前の代わりに IP アドレスでシステムにアクセスすると、ブラウザーが、それらのシステムが **[インターネットゾーン]**にあるとみなす場合があります。代わりに、名前でアクセスしてください。HP SIM を設定して、**[オプション]→[セ**

セキュリティ]→[システムリンクの設定]の順に選択して [システム名を使用]を選択することでシステムへのリンクを作成する際に、システム名を使用できます。

- プロキシサーバーを使用するようにブラウザが設定されている場合、特定のシステムがプロキシサーバーをバイパスするようにブラウザを設定できます。これによって、ブラウザの [インターネットゾーン] からそのシステムが削除されます。ブラウザのメニューから [ツール] → [インターネットオプション] を選択し、[接続] タブをクリックします。[LAN の設定] をクリックし、プロキシサーバーを使用する場合、[詳細設定] をクリックします。[例外] リストで、プロキシサーバーをバイパスするアドレスのリストを指定できます。このアドレスは、[インターネットゾーン] に存在しなくなり、プライバシー設定ポリシーに影響されません。

解決策 2B : (非推奨) ブラウザーのプライバシーセキュリティポリシー設定を変更してください。Internet Explorer ブラウザーのメニューから [ツール] → [インターネットオプション] を選択し、[プライバシー] タブをクリックします。プライバシー設定は、次のいずれかの方法で変更できます。

- スライダーを一番下まで移動して、プライバシー設定を [すべての Cookie を受け入れる] に設定します。この設定により、ブラウザは、ファーストパーティのサイトとサードパーティのサイトのすべての Cookie を受け入れることができます。HP SIM にアクセスしたり、管理対象システムに直接アクセスしたりするときは、ファーストパーティのサイトとみなされます。HP SIM 経由で管理対象システムへ移動するときは、サードパーティのサイトとみなされます。
- [詳細設定] をクリックし、[自動 Cookie 処理を上書きする] を有効にして、Cookie 処理をカスタマイズします。次に、ファーストパーティの Cookie とサードパーティの Cookie について、適当なラジオボタン ([受け入れる] または [ダイアログを表示する]) を選択します。[ダイアログを表示する] を選択すると、Cookie を受信するたびに Cookie を処理する方法に関するプロンプトが表示されます。各回または毎回 Cookie をブロックするか、許可するかを選択できます。Web エージェントはセッション Cookie を使用しないので、[常にセッション Cookie を許可する] を有効にしても問題は解決されません。
- システムごとに Cookie の処理を個別に指定します。[Web サイト] セクションにある [編集] をクリックし、指定したフィールドにシステムのアドレスを追加します。[許可] をクリックして、常にそのシステムへの Cookie を許可します。すべてのシステムについて、これを繰り返します。

8.5 GUI の問題

8.8.5.1 HP SIM 証明書をインポートできない。同じ Linux サーバーに HP System Management Homepage と HP SIM をインストールしました。

解決策 : 同じサーバーで HP SIM と HP SMH を実行するには、HP SIM をインストールした後で HP SMH をインストールまたはアップグレードする必要があります。問題が発生する場合は、HP SIM のインストールが完了した後で、HP SMH を再インストールまたはアップグレードしてください。

9 サポートと他のリソース

ご連絡の前にご用意いただく情報

ご連絡いただく前に、次の情報をお手元にご用意ください。

- ソフトウェア製品名
- ハードウェア製品モデル番号
- オペレーティングシステムの種類とバージョン
- 該当するエラーメッセージ
- サードパーティ製のハードウェアまたはソフトウェア

HP テクニカルサポートへのご連絡方法

次の方法で HP のテクニカルサポートに問い合わせてください。

- 米国では、以下の「Customer Service / Contact HP United States」Web サイトを参照してください。

http://welcome.hp.com/country/us/en/contact_us.html

- 米国では、1-800-HP-INVENT（1-800-474-6836）に電話で問い合わせてください。このサービスは、休日なしで 24 時間ご利用いただけます。品質改善のため、通話は録音またはモニターされることがあります。

- 他の地域では、「Contact HP Worldwide」の Web サイトで問い合わせ方法を確認してください。

<http://welcome.hp.com/country/us/en/wwcontact.html>

ソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスへの登録

HP Insight Management には、1 年間、24 時間年中無休のソフトウェアテクニカルサポートおよびアップデートサービスが含まれています。このサービスは、ソフトウェアの実行の解決またはオペレーション問題をアシストするために HP テクニカルリソースへのアクセスを提供します。

このサービスはさらにソフトウェアアップデートおよびリファレンスマニュアルへのアクセスを提供します。

このサービスで、Insight Management のお客様は、ソフトウェアアップデートの通知と入手だけでなく効率の良い問題解決も受けることができます。SAID を受け取りましたら、ITRC（IT リソース・センター）で ITRC ユーザー ID に SAID 情報をリンクすることで、ソフトウェアアップデートマネージャー（SUM）の Web ページを利用して、契約内容をオンラインで参照したり、アップデートの電子配布を選択することが可能です。

登録の具体的な方法については、以下の URL をご覧ください。

http://www.hp.com/jp/swsupport_entry

ソフトウェアテクニカルサポートとアップデートサービスの使用方法

登録後、サービスの窓口の電話番号と SAID（Service Agreement Identifier）を含むサービス契約書がメールで送付されます。テクニカルサポートに連絡する場合は、SAID が必要です。また SAID を使用して、ソフトウェアアップデートマネージャー（SUM）の Web サイト <http://www.hp.com/go/hpsc> から、オンラインでの契約内容の確認が可能です。

保証情報

HP は購入日から 90 日以内であれば、問題のある配布メディアを交換します。この保証は、すべての Insight Management 製品に適用されます。

参考資料

マニュアルおよびサポート

Systems Insight Manager と、Systems Insight Manager とともに使用する他の製品のサポート、ソフトウェア更新、および追加情報については、以下の Web サイトを参照してください。

- HP Systems Insight Manager の Web サイト <http://www.hp.com/jp/hpsim/>。一般製品情報と、ソフトウェアダウンロード、マニュアル、およびトラブルシューティング情報へのリンクを掲載しています。
- HP Systems Insight Manager の Web サイト <http://www.hp.com/jp/hpsim/>。HP Systems Insight Manager ソフトウェアダウンロードにアクセスできます。
- HP ビジネスサポートセンターの Web サイト <http://www.hp.com/bizsupport/>（英語）。HP Systems Insight Manager とその他の個人ユーザー向け HP 製品のサポート情報が掲載されています。
- HP の Web サイト <http://www.hp.com/go/hpsc>。HP Systems Insight Manager とその他の企業ユーザー向け HP 製品のサポート情報が掲載されています。
- HP Systems Insight Manager SMI-S プロバイダーの Web サイト <http://www.hp.com/go/hpsim/providers>（英語）。デバイスサポートと SMI-S プロバイダーについての情報が掲載されています。
- HP Systems Insight Manager と Essentials の紹介ビデオ <http://h18013.www1.hp.com/products/servers/management/hpsim/infolibrary.html>（英語）。
- HP Systems Insight Manager フォーラム (<http://forums1.itrc.hp.com/service/forums/categoryhome.do?categoryId=455>（英語）)。HP Systems Insight Manager について話し合うことができます。

Systems Insight Manager の資料

Systems Insight Manager の詳細については、HP Systems Insight Manager の Web サイト http://www.hp.com/jp/proliantessentials_manual にある HP Systems Insight Manager のマニュアルおよびリリースノートを参照してください。

表記規約

『マニュアル名』	マニュアルやその他の資料の名前です。
『リンク付きのマニュアル名』	ハイパーリンク付きのマニュアルやその他の資料の名前です。
http://www.hp.com	サイトへのハイパーリンクである Web サイトアドレスです。
コマンド	コマンド名または修飾子付きコマンド名を示します。
ユーザー入力	入力するコマンドなどのテキスト文字列のフォントです。
コンピューター出力	コンピューターが表示するテキスト文字列のフォントです。
Enter	キーボード上のキーです。 Return と Enter は同じキーを指しているのに注意してください。たとえば、 Ctrl+A というキーシーケンスは、 Ctrl というラベルの付いたキーを押したまま、 A キーを押す必要があることを説明しています。
用語	重要な単語や表現で、定義されたものです。
変数	環境変数名 (PATH や errno など)。
値	コマンドや関数、情報内で、とりうる値の一つに置き換えられることを示す値です。

用語解説

CPU ボーリング率	監視対象システム上で Insight マネジメント エージェントがレポートする CPU の利用率を、クラスター監視 CPU リソースがチェックする頻度のこと。
Desktop Management Interface	Desktop Management Task Force (DMTF) によって確立された、主にクライアント管理で使用される業界標準プロトコル。DMI は、クライアントシステムについての問題レポートを効率的な方法で提供する。DMI 準拠のコンピューターは、ネットワーク上の中央管理システムにステータス情報を送信できる。
Desktop Management Task Force	業界の WBEM 標準を定義する業界標準組織。HP は DMTF の積極的なスポンサおよびメンバーである。
Email 通知	HP Systems Insight Manager の通知タスクの 1 つ。Email で通知を送信する。
hosts ファイル	UNIX、Linux、または Windows の hosts ファイルフォーマットに従うファイル。このファイルでは、IP アドレスの後に名前と各システムが個別の行でリストされる。このファイルは、複数のシステムを HP Systems Insight Manager データベースに手動で追加するための検出で使用される。
HP CloudSystem Integrated Manager	HP CloudSystem Integrated Manager は、Windows、HP-UX、および Linux のブレードシステムを HP Systems Insight Manager から管理できるようにする HP Systems Insight Manager プラグイン。HP CloudSystem Integrated Manager は、ブレードコンピューターシステム、データおよびストレージネットワークへの統合接続、ならびに共有電源サブシステムで構成される。HP CloudSystem Integrated Manager を使用すると、ユーザーは、ご使用の HP ブレード環境（サーバーブレード/デスクトップ、エンクロージャーインフラストラクチャ、ラック、統合スイッチなど）を階層型ツリービューによって素早く操作することができる。これにより、個々のブレードシステムまたはブレードシステムグループを簡単に設定し、展開し、管理することができる。
HP Insight Control	HP 製のシステム、クラスター、デスクトップ、ワークステーション、ハンドヘルドなど、さまざまなシステムを管理できるシステムマネジメントソフトウェア。 HP Systems Insight Manager は、Insight Management 7.1、HP Tootools、HP Servicecontrol Manager の長所を組み合わせることにより、Windows、Linux、HP-UX を実行している HP ProLiant システム、Integrity システム、HP 9000 システムを管理する、統一されたツールとして使用できる。HP Systems Insight Manager ソフトウェアの中核部分では、すべての HP 製サーバープラットフォームの管理に不可欠な機能が提供される。HP 製ストレージ、電源、クライアント、およびプリンター製品のプラグインを使用して HP Systems Insight Manager を拡張することもでき、広範なシステム管理に使用できる。また、迅速なマシンの展開、パフォーマンス管理、ワークロード管理のプラグインにより、ハードウェア資産の完全なライフサイクルの管理機能の提供に必要な付加価値ソフトウェアを選択できる。
HP Insight Control サーバー配備	HP Insight Control サーバー配備は、マルチサーバー展開ツールである。このツールを使用すると、IT 管理者は、無人化（自動化）された方法で多数のサーバーを簡単に展開できる。Insight Control サーバー配備は、HP SIM とは別にインストールされ、管理されるサーバーごとに 1 つずつライセンスが必要である。Insight Control サーバー配備をインストールする前に、Insight Control サーバー配備製品を登録して、ライセンスを購入するか 10 ノード 30 日間ライセンスを入手する必要がある（10 ノード 7 日間試用ライセンスはソフトウェアに付属している）。Insight Control サーバー配備は、独自の DVD からインストールされる。試用ライセンスの入手または製品登録のためのリンクなど、Insight Control サーバー配備については、HP の Web サイト http://www.hp.com/jp/servers/rdp/ を参照。ネットワーク環境のセットアップ、サーバー配備の要件、およびインストール手順の詳細については、Insight Control サーバー配備のマニュアルを参照。
HP Insight Control パフォーマンス管理	HP ProLiant サーバーのハードウェア障害の検出、分析、説明を行うソフトウェアソリューション。HP Insight Control パフォーマンス管理ツールは、オンライン分析、オフライン分析、CSV ファイル生成レポート、システム概要レポート、ステータス分析レポート、設定、ライセンス、手動ログ削除から構成される。
HP Insight Control 仮想マシン管理	Microsoft Virtual サーバー、ならびに VMware の GSX および ESX で、仮想マシンを 1 か所で集中的に管理および制御する。virt は、HP Systems Insight Manager に統合されることにより、HP ProLiant ホストサーバーと仮想マシンを統一的に管理できる。

HP Insight Control 電力管理	サーバーの消費電力や熱出力をデータセンターレベルで集中管理できる統合電力監視/管理アプリケーション。このアプリケーションにより、ProLiant サーバーに必要な総電力および冷却機能を制御できるようになり、データセンターの能力を拡張できる。ProLiant パワーレギュレータテクノロジーに基づくこのアプリケーションは、新しいサーバーエネルギー計測レバーを HP Systems Insight Manager に付与して、優れた統合インフラストラクチャ管理を実現する。
HP Insight Control データベース	ユーザー、システム、ツールボックスなど、HP Systems Insight Manager に関する、有効な情報を保存するデータベース。
HP Insight Remote Support Advanced	HP Insight Remote Support Advanced は、データセンター環境内の HP がサポートするサーバーおよびストレージデバイスの可用性向上に役立つ、予防的なりモート監視、診断、およびトラブルシューティング機能を提供する。Insight Remote Support Advanced により、システムやデバイスのサポートにかかるコストが削減され、複雑さが解消される。Insight Remote Support Advanced は、イベントの情報をお客様のファイアウォールや Web プロキシ経由で安全に HP サポートセンターに伝え HP の対応を要求する。また、サポート契約に基づいてシステム情報を収集し、予防的な分析とサービスを提供する。
HP Insight マネジメントエージェント	ユーザーの介在なしに、情報を定期的に収集したり、その他のサービスを実行したりするプログラム。
HP バージョン コントロール エージェント	サーバーにインストールし、サーバーにインストールされている HP 製ソフトウェアを確認するためのエージェント。バージョン コントロール レポジトリ マネージャーをポイントするように HPVCA を設定すると、バージョンを簡単に比較したり、レポジトリからソフトウェアを更新したりできるようになる。
HP バージョン コントロール レポジトリ マネージャー	ユーザー定義のレポジトリに保存されている HP 製ソフトウェアを管理する HP エージェント。
HyperText Transfer Protocol	ワールドワイドウェブで使用される、基礎となるプロトコル。
Insight Vulnerability and Patch Manager ソフトウェア	HP Systems Insight Manager に統合される、必要な機能をすべて備えた脆弱性評価およびパッチ管理ツール。サーバーの可用性に影響を及ぼす可能性のある問題の予防的識別と解決を簡素化して、中央の単一コンソールに統合。
IP 範囲	指定した範囲内の IP アドレスを持つシステム。
Java データベース 接続性	ODBC (Open DataBase Connectivity) と同様に、アプリケーションプログラムインターフェイス (API) のこのセットは Java アプレットのデータベースアクセスを可能にする標準メカニズムを提供する。
Java リモートメソッド呼び出し	Java オブジェクトが、別の Java オブジェクトとリモートでやり取りできるようにするプロトコルセット。
Microsoft クラスター サービス ステータス ページ	Microsoft Cluster Server による定義に従い、クラスターのステータスをまとめたページ。MSCS が定義するクラスター属性のステータスと値のリストを含む。クラスター監視は、色を使用して MSCS ステータス値 (正常、劣化、障害、その他) を基にステータスを表示する。
Onboard Administrator	c-Class エンクロージャー全体を制御するための集中管理ポイント。ラック全体と、そのラックに関連するブレード (Compute Server)、ブレード管理プロセッサ (iLO)、ネットワークスイッチ (使用されるスイッチのモデルによって異なる)、およびストレージコンポーネント (SAN、SATA など) の設定、電力、および管理制御を提供する。Onboard Administrator は、単一の管理プロセッサで、フェイルオーバー用にオプションのバックアップツインプロセッサとの共有リソースを持つ。
Open Service Event Manager	Insight マネジメントエージェントが動作している、サポートされているシステム (ProLiant および Integrity) の問題のレポートを収集し、フィルタリングし、送信することができる。さらに、システムで問題が検出されると、HP Systems Insight Manager にサービスイベント通知を自動的に送信する。
OpenSSH	SSH を使用して、コンピューターネットワーク経由で暗号化通信セッションを実現するネットワーク接続ツールのセット。SSH Communications Security が独自に提供する SSH ソフトウェアスイートに代わるオープンソースとして作成された。

ProLiant Essentials ライセンスキー	HP がお客様に与える契約上の許可であり、ライセンスの特定のインスタンスを示すライセンスコードの形式で具体化される。1 つのライセンスは、1 つのキーで表現されたり、キーの集合によって表現されたりする。
ProLiant Support Pack	HP によってバンドルされた HP 製ソフトウェアコンポーネントのセット。特定のオペレーティングシステムで動作することが確認されている。ProLiant Support Pack には、ドライバーコンポーネント、エージェントコンポーネント、ならびにアプリケーションおよびユーティリティコンポーネントが含まれる。これらは、すべて一緒にインストールしても問題ないことが確認されている。
ProLiant および Integrity Support Pack	ProLiant および Integrity Support Pack は、HP によってバンドルされた HP 製ソフトウェアコンポーネントのセット。特定のオペレーティングシステムで動作することが確認されている。ProLiant および Integrity Support Pack には、ドライバーコンポーネント、エージェントコンポーネント、およびアプリケーションとユーティリティのコンポーネントが含まれています。これらは、すべて一緒にインストールしても問題ないことが確認されている。
Red Hat パッケージ マネージャー	Red Hat パッケージマネージャーは、強力なパッケージマネージャーで、個々のソフトウェアパッケージをビルド、インストール、クエリ、確認、アップデート、およびアンインストールするために使用できる。パッケージは、ファイルのアーカイブと、名前、バージョン、および説明を含むパッケージ情報で構成される。
SAN	ストレージエリアネットワーク (SAN) は、データストレージデバイスを関連付けられたデータサーバーに接続するネットワーク (サブネットワーク)。通常、コンピューティングリソースのネットワーク全体の一部に当たる。
Secure HTTP	HTTP プロトコルの拡張機能であり、Web 上でデータを安全に送信できる。
Secure Shell	ネットワークを通して別のシステムにログインし、そのシステムでコマンドを実行するプログラム。また、あるシステムから別のシステムにファイルを移動でき、安全でない経路でも安全な認証と通信を提供する。
Secure Sockets Layer	HTTP と TCP の間にあって、クライアントとサーバーの間でプライバシーやメッセージ整合性を提供する標準プロトコル層。一般に、SSL は、クライアントが正しいサーバーと通信していることを保証するサーバー認証に使用される。アプリケーションプロトコルに依存しない。
Service Advertising Protocol	ネットワークに接続されているサーバーのサービスとアドレスの識別に使用される NetWare のプロトコル。
Short Message Service	簡潔なテキストメッセージをワイヤレス電話に直接送信する便利な方法。最大メッセージ長は 140 文字。
Simple Network Management Protocol	HP Systems Insight Manager によってサポートされる管理プロトコルの 1 つ。ネットワークシステムとほとんどのサーバーによって広く使用される、従来の管理プロトコル。TCP/IP ベースのインターネットのネットワーク管理用の管理情報ベース (MIB-II) は、すべてのベンダーに一貫して提供されている標準情報。
Simple Object Access Protocol	一元管理されていない分散環境で情報を交換するための軽量プロトコル。
SMI CIMOM	共通情報モデルオブジェクトマネージャー を参照。
SMI-S プロバイ ダー	ストレージ管理用に明確に定義されたインターフェイスを実装する業界標準 WBEM プロバイダー。HBA、スイッチ、テープライブラリ、およびストレージアレイのメーカーは、それらのシステムを SMI-S プロバイダーと統合するか、SMI-S プロバイダーを個別のソフトウェアパッケージとして提供することができる。 Web Based Enterprise Management も参照。
SNMP 通信設定	SNMP 通信をサポートするシステムとの通信時に使用されるデフォルトの SNMP コミュニティ名。
SNMP トラップ	障害を通信するのに使用するシステムで、SNMP エージェントによって生成される非同期イベント。
SNMP を使用した システム情報	SNMP MIB-2 規格に準拠するエージェント。
Software Distributor	HP-UX 管理ツールセットで、HP-UX オペレーティングシステムとレイヤードソフトウェアアプリケーションの配布と管理に使用される。

Storage Management Initiative Specification	SNIA (Storage Networking Industry Association) によって策定された標準管理インターフェイス。SMI-S によって、複数のベンダーのストレージデバイスを管理するための共通インターフェイスが提供され、管理が容易になる。SMI-S は、業界標準の 共通情報モデル と Web-Based Enterprise Management 技術を使用する。
Survey ユーティリティ	ハードウェアとオペレーティングシステムの設定情報を収集および配信するエージェント（またはオンラインサービスツール）。この情報は、サーバーがオンラインの間に収集される。
System Management Homepage	HTTP および HTTPS 経由で通信する HP の HP Web ベース システム マネジメント ソフトウェアで使用されるソフトウェアの統合セット。HP Web ベース システム マネジメント ソフトウェアに一定の機能とセキュリティのセットを提供します。
Tomcat	Web サーバーとして HP Systems Insight Manager が使用する、Java サブレット技術と Java サーバーページ技術のオープンソース実装。
HP VCA ログ	バージョンコントロールエージェントによって実行されたすべてのソフトウェアメンテナンスタスクとそのタスクの結果生成されたレポートのリスト。
Virtual Server Environment	HP Virtual Server Environment は、HP-UX、Linux、および Windows サーバー用の統合サーバー仮想化製品で、サーバーリソースの利用率を最適化する柔軟なコンピューティング環境を提供する。VSE は、動的にサイズを変更できる仮想サーバーのプールによって構成される。各仮想サーバーは、サービスレベル目標やビジネス優先度に応じて拡張または縮小される。詳細については、HP の Web サイト http://h71028.www7.hp.com/enterprise/cache/258348-0-0-101-121.html (英語) を参照してください。
WBEM サービス	HP WBEM Services for HP-UX は、WBEM 標準と DMTF 標準を使用して HP-UX システムリソースを管理する HP 製品。
Web Based Enterprise Management	この業界イニシアチブは、システム、ネットワーク、ユーザー、およびアプリケーションを、複数のベンダー環境にまたがって管理できるようにする。WBEM は、システム管理を簡素化し、WBEM クライアントアプリケーションで読み出すことのできるソフトウェアデータとハードウェアデータへのアクセス性能を向上させる。
Web-Based Enterprise Services	システムのダウンタイムを防止または削減するためのツールスイート。
Web 起動対応	Web サーバーを使用して Web ブラウザーで起動するツールの実行タイプ。WLA ツールは、複数のシステムに対処するように設計できる。
Windows Management Instrumentation	ネットワーク内のシステムを管理および制御できるようにする、Windows オペレーティングシステム内の API。
X Window システム	プラットフォーム間ウィンドウシステムであり、クライアント/サーバーモデルを使用して、ネットワーク経由でサービスを配布する。これにより、リモートコンピューター上でアプリケーションやツールを実行できるようになる。
XML ドキュメント	XML で表現されたデータの集合。
X クライアント	X サーバー上に表示されるアプリケーションまたはツール。X クライアントは、X アプリケーションとも呼ばれる。
X サーバー	X クライアントの要求を受け入れて、それに基づいて動作するローカルアプリケーション。
イベント	管理対象に何か変更があった場合に、特定ユーザーに通知する情報。イベントは SNMP トラップから生成される。重要なイベントが発生すると、HP Systems Insight Manager はトラップを受信する。イベントは次のように定義される。 <ul style="list-style-type: none"> ● 警告。 このタイプのイベントは、問題に発展する可能性のある状態を示す。 ● 情報。 このタイプのイベントに注意する必要はなく、これらは、便利な情報として提供される。 ● 正常。 このイベントは問題ではない。 ● マイナー。 このタイプのイベントは、さらに深刻な問題に発展する可能性のある警告ステータスを示す。

- **メジャー。**
このタイプのイベントは、差し迫った障害を表す。
- **クリティカル。**
このタイプのイベントは、障害が発生しており、すぐに対処すべきであることを示す。

イベント概要	製品タイプごとにイベントを要約する表。
イベントを確認済みに変更	未確認から確認済みにイベントステータスを変更すること。
インストールされているバージョン	サーバーにインストールされている特定の HP 製ソフトウェアコンポーネント。
インターネットプロトコル	ネットワーク上で送受信されるデータグラム（パケット）のフォーマットとアドレス指定スキーマを指定する。ほとんどのネットワークは、送信先と送信元の仮想接続を確立する TCP（Transmission Control Protocol）と、この IP を組み合わせている。
インフラストラクチャサービス	多層 Web アプリケーションなど、ビジネスアプリケーションの実行のために設計され、インフラストラクチャリソースを実際に稼動するように構成したもの。「サービス」「サービスインスタンス」とも呼ばれる。
エージェント	ユーザーの介在なしに、情報を定期的に収集したり、その他のサービスを実行したりするプログラム。HP Systems Insight Manager エージェントでは、ハードウェアとソフトウェアの詳細情報、およびサブシステムのステータスが、HP Systems Insight Manager と多数のサードパーティ製管理アプリケーションに提供される。 マネジメントエージェント も参照。
エージェント設定のレプリケート	Web ベースエージェント設定をシステムのグループにコピーするツール。
エージェントの設定および修復	SNMP 設定の認証情報や、HP Systems Insight Manager とターゲットシステム間の信頼関係を修正できる HP Systems Insight Manager の機能。7.1 以前のエージェントがインストールされているターゲットシステム上の Web エージェントパスワードを更新することもできる。
エンクロージャー	1 組のサーバーブレードを収納する物理的なコンテナ。エンクロージャーは、電源と信号を供給するバックプレーンと配線や温度センサー用のその他のハードウェアから構成される。CPU の電源やサーバーの電源もホストする。
オペレーター権限があるユーザー	中央管理サーバーを設定する機能が制限されているユーザー。オペレーター権限があるユーザーには、すべてのレポートと自分自身のツールの作成、修正、削除を行う権限がある。
外部サイト	サードパーティアプリケーションの URL。
確認済みステータス	イベントが確認されたことを示すステータス状態。
カスタムツール	ユーザーが作成できるツールで、中央管理サーバーまたはターゲットシステム上で実行できる。次に例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ● リモートツール 選択したターゲットシステム上で実行されるツール。ファイルをターゲットシステムにコピーしたり、ターゲットシステム上で特定の X-Window アプリケーションを実行したりすることができる。ユーザーはこのツールのスケジュールを設定できる。 ● CMS ツール CMS 上で実行されるツール。通常、スクリプトかバッチファイルで、環境変数を渡すことができる。このツールは、自動イベント処理を使用してイベントの受信時に実行されるように設定できる。ユーザーはこのツールのスケジュールを設定できる。 ● Web ページツール Web URL を起動するツール。URL は、CMS 上の別のブラウザウィンドウで起動する。このツールのスケジュールは設定できない。
[監視ツール] ツールボックス	管理対象システムの状態を表示するツールが含まれるが、管理対象システムの状態を変更するツールが含まれないデフォルトツールボックス。

管理 LAN	システム管理に必要な通信専用の LAN。一般的に、帯域は中程度（10/100 BaseT）であり、アクセス制限によって安全になっている。
管理機器	システムで動作し、HTTP または SNMP プロトコルの管理情報を提供するエージェント。
管理サービス	自動検出、データ収集、システムとイベント情報の中央レポジトリ、イベント管理、基本通知、およびセキュアアクセスなどの機能のコアセット。この機能は、HP、マネジメントソリューションパートナー、および HP Systems Insight Manager ユーザーからのアドインによって使用される。
管理者	インフラストラクチャ オркестレーション コンソールを介してユーザー、リソースプール、およびセルフサービスリクエストを管理するユーザー。
管理者権限があるユーザー	中央管理サーバーを含むすべてのシステムで [すべてのツール] ツールボックスを使用する権限を持つユーザー。このタイプのユーザーには、HP Systems Insight Manager ソフトウェアを管理する、特別な権限が与えられる。
管理情報ベース	SNMP プロトコルを使用して情報を送信するためのデータ仕様。また、MIB はネットワーク管理プロトコルによってアクセスされる管理オブジェクトのデータベースである。
管理スコープ	HP Systems Insight Manager が管理する、検出されたすべてのシステムのセット内にあるシステムセット。
管理対象システム	サーバー、デスクトップ、ストレージシステム、リモート Insight ボード（RIB）など、HP Systems Insight Manager によって管理されるシステム。
管理タスク	システムまたはイベントの検索を設定する手続き。
管理ドメイン	管理対象システムと呼ばれるリソースの集合であり、HP Systems Insight Manager の制御下に置かれる。それぞれの中央管理サーバーが、管理ドメインを制御する。管理対象システムは、複数の管理ドメインに属することができる。
管理プロトコル	検出されたシステムとの通信を確立する WBEM、HTTP、または SNMP などのようなプロトコルのセット。
キーストア	キーのリストを保管するデータベース。キーストアには、自分のプライベートキーを入れることができる。また、証明書に公開されているパブリックキーのリストを入れることもできる。
共通情報モデル	Desktop Management Task Force（DMTF）によって定義されたオブジェクト指向スキーマ。CIM は、エンタープライズワイドで管理情報を説明および共有する情報モデルガイドである。CIM は、使用される管理環境単位で拡張できるように設計されている。
共通情報モデルオブジェクトマネージャー	CIMOM は、Web-Based Enterprise Management（WBEM）プロバイダーと管理アプリケーション（HP Systems Insight Manager など）の間の通信のインターフェイスとして機能する。 SMI-S プロバイダー 用のインターフェイスを提供する CIMOM は、SMI CIMOM と呼ばれることがある。
共有リソースドメイン	システムリソースを共有するコンパートメント（すべて同タイプ）の収集。コンパートメントには、nPartition、仮想パーティション、プロセッサセット（pSet）、または Fair Share Scheduler（FSS）グループなどがある。nPartition を含むサーバーは、nPartition の要件が満たされていれば、SRD になる可能性がある。仮想パーティションに分割されたサーバーや nPartition は、その仮想パーティションコンパートメントの SRD になる可能性がある。同様に、pSet を含む、サーバー、nPartition、または仮想パーティションは、その pSet コンパートメントの SRD になる可能性がある。さらに、FSS グループを含む、サーバー、nPartition、または仮想パーティションは、その FSS グループコンパートメントの SRD になる可能性がある。 nPartition を含むコンプレックスは、複数の SRD を保持する可能性がある。たとえば、コンプレックスが Par1 および Par2 という名前の nPartition に分割されている場合、Par1 のコンパートメントが仮想パーティションである可能性があり、Par2 のコンパートメントが pSet である可能性がある。 各コンパートメントがワークロードを持つ。gWLM は、コンパートメントのリソース割り当てを調整してワークロードを管理する。
クライアント	HP 製デスクトップ、ハンドヘルド、およびワークステーションシステム。

クラスター	複数の個別システムから構成される、並列または分散コンピューティングシステムであり、単一で統合されたコンピューティングリソースを形成する。機能、複雑さ、そして目的に応じて、クラスターの最適な構成は異なる。
クラスター IP アドレス	クラスターの IP アドレス。
クラスター監視	HP Systems Insight Manager の中心的なコンポーネント。クラスター監視では、マルチノードクラスターの監視と管理ができる。また、クラスター監視は、異機種環境で複数のクラスタープラットフォームを管理する。
クラスター監視リソース	クラスター内でクラスター化されたノードの監視または管理機能を提供するプログラム。
クラスターシステム識別	クラスターシステムに関する情報。この情報はデータベースに格納される。
グラフィカルユーザーインターフェイス	コンピューターのグラフィック機能を利用して、プログラムを簡単に使用できるようにするプログラムインターフェイス。HP Systems Insight Manager の GUI は、Web ブラウザー内で動作する。
クリティカルステータス	HP Systems Insight Manager が管理対象システムとやり取りできないときに生成される状態。
警告	特定イベントが発生したとき、HP Systems Insight Manager の [システムステータス] パネルに表示される、ユーザーが設定可能な通知。たとえば、監視されている項目が変更された場合、警告はユーザーに変更が発生したことを通知する。 トラップ、イベント も参照。
権限	ユーザー、ツールボックス、システム、システムグループ間の関係のマップ。
検索条件	HP Systems Insight Manager データベースから必要な情報のサブセットを定義するために使用する変数（情報）のセット。
検出	ネットワークオブジェクトを検索および識別する管理アプリケーションの機能。HP の管理アプリケーションでは、検出により、指定したネットワーク範囲にあるすべての HP 製システムが検索および識別される。
検出テンプレート	検出テンプレートは、自動検出によって使用されるファイルであり、[自動検出-一般設定] ページの [包括範囲を ping] フィールドや [除外範囲] フィールドにアドレスを直接入力する代わりとなる。また、自動検出の範囲を迅速に変更するための方法として設計されている。
検出フィルター	ユーザーが、特定システムタイプのデータベースへの追加を許可したり禁止したりできるようにする。
コマンドラインインターフェイス	sh、csh、ksh などのコマンドシェルや Microsoft Windows CMD シェルから実行できるテキストベースのアプリケーション。
コンプレックス	複数のハードウェアパーティションがサポートされているコンピューターシステムは、コンプレックスと呼ばれている。たとえば、HP Integrity Superdome システムでは、単一コンプレックス内で、複数のハードウェアパーティションがサポートされる。
コンポーネント	コンポーネントは、インストール可能な（対話式またはサイレント）単一の自己記述バイナリファイルで、ファームウェアイメージ、ドライバー、エージェント、ユーティリティなど、マネジメントツールやアップデートツールでサポートされるソフトウェアを含む。
サーバーブレード	一般には、マイクロプロセッサ、メモリ、ネットワークカードなどを搭載する超高密度サーバーシステムのこと。ラックに設置可能なエンクロージャーに挿入して、電源、ファン、スイッチなどのコンポーネントを他のサーバーブレードと共有できる。サーバーブレードは、従来のラックマウント型サーバーやタワー型サーバーと比較して、一般に、コスト効率が高く、配備に時間がかからず、成長や変化への対応が容易である。 エンクロージャー も参照。
サーバーブレードの図による位置の特定	各エンクロージャーおよびラック内の、ProLiant BL e-Class、p-Class、および c-Class サーバーを視覚的に表示する機能。 エンクロージャー も参照。
作業領域	ツールが表示される GUI の一部分。
サブネット	TCP/IP ネットワークで、IP アドレスのプレフィックスが同じシステムの集まり。たとえば、10.10.10. で始まる IP アドレスを持つすべてのシステムが、同じサブネットに含まれる。

識別	検出ではシステムが探し出されるが、識別ではシステムタイプの判別が試みられる。さらに、 [グローバルプロトコルの設定] ページの認証情報を使用して、システムがサポートする管理プロトコルが特定され、ロードされているオペレーティングシステムの種類やバージョンと、システムに関するその他の基本的な属性の取得も試みられる。識別は、最後に、システムが別のシステムと関連付けられているかどうかを確認する。たとえば、サーバー内の管理プロセス。
自己署名証明書	記載者と認証機関が同じであるなど、認証機関を証明する証明書。証明書、認証機関も参照。
システム	TCP/IP を介して通信するネットワーク上のノード。システムを管理するには、あるタイプの管理プロトコル (SNMP、WBEM など) がシステムに存在する必要がある。システムの例としては、サーバー、ワークステーション、デスクトップ、ハンドヘルド、ルーター、スイッチ、ハブ、およびゲートウェイがある。
システム概要レポート	HP Systems Insight Manager を初めて起動したときに取得されるシステムのステータスを示すレポート。システム検索結果には、HP Systems Insight Manager データベースに登録されているシステム数が含まれる。システムは、それらのステータス条件によってグループ化されている。列の各番号はシステムの詳細情報リストへのハイパーリンクで、概要における番号に対応したシステムを表示する。
システムグループ	システム収集 (システムグループが作成された時点でのソース収集の静的なスナップショット) に基づくシステムグループ。ユーザー認証に使用する。
システム検索	HP Systems Insight Manager データベース内の情報に基づいてシステムを論理グループに分類すること。検索を定義すると、システムビューページに結果を表示し、管理タスクに関連付けることができる。
システム検索結果	システム検索の結果。
システム識別	システムに関する情報を識別すること。この情報はデータベースに格納される。以下の情報が識別される。 <ul style="list-style-type: none"> • システムの管理プロトコルタイプ (SNMP、WBEM、HTTP、および SSH) • HP システムタイプ (サーバー、クライアント、スイッチ、ルーターなど) • システムのネットワーク名
システム情報	[システム] タブの [システムページ] で提供される情報。システム情報は、以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> • [ネットワークアドレス] • [ネットワーク名] • [説明] • [連絡先] • [場所] • [システムリンク]
システムステータスパネル	画面の左側にある GUI セクションで、ステータス情報とシステムまたはイベント警告を表示する。
システムタイプ	12 のタイプが提供されている。これらのタイプの 1 つをもとに独自のタイプを追加できる。たとえば、Server タイプを使用して MyServer タイプを作成する。このタイプは依然としてサーバーであり、同じ方法でレポートされるが、独自の指定を持っている。
システムタイプ管理	検出と識別のデフォルト動作を修正し、不明やシステムの別のカテゴリに分類されたオブジェクトを、要求どおりに正確に検出して識別できるようにするユーティリティ。HP Systems Insight Manager では、システムの検出と識別が行われ、プライマリルールセットとして指定したルールセットに、不明システムが一致する場合、新しい情報が適用される。さらに、新しいシステムタイプを作成すると、 [システムリンク] ページが提供され、システムエージェントまたは SNMP の通信プロトコルから戻される情報が表示される。
システムプロパティ	単一のシステムに対して、または同時に複数のシステムに対して設定できるプロパティ。システム名、システムタイプ、システムサブタイプ、オペレーティングシステムバージョン、資産管理番号、および連絡先情報や、検出プロセスによってシステムプロパティが変更または更新可能かどうかなどのオプションがある。

システムヘルスステータス	<p>ターゲットシステムでサポートされるすべてのステータスソース（SNMP、WBEM、HTTP など）の統計ステータス。最も深刻なステータスが表示される。表示される各種システムヘルスステータスは、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● クリティカル HP Systems Insight Manager がシステムとやり取りできない。このシステムは以前検出されていたが、現在は ping できない。システムが停止しているか、電源が切れているか、ネットワークの問題のためにネットワーク経由でアクセスできない。 ● メジャー このシステムに、重大な問題が発生している。このステータスにはすぐに対処する必要がある。Insight マネジメント エージェントを実行しているシステムの場合は、一部のコンポーネントで障害が発生している。システムが正常に動作しておらず、データが消失している可能性がある。 ● マイナー このシステムに、軽度の問題がある。Insight マネジメント エージェントを実行しているシステムの場合、一部のコンポーネントが故障しているがシステムはまだ機能している。 ● 警告 システムに潜在的な問題が存在するか、問題が発生する可能性のある状態になっている。 ● 正常 システムは正常に稼動している。 ● 無効 監視機能から見るとシステムは無効になっているが、必ずしも電源が切られているわけではない。 ● 不明 HP Systems Insight Manager が、システムに関する管理情報を取得できない。 ● 情報 システムの状態が変化しているところか、またはエラーではない状態が発生している。
システムリンク	管理エージェントを搭載する特定のシステムの概要情報ページ。
自動検出	HP Systems Insight Manager が、ネットワーク上のシステムを検出および識別し、その情報を使ってデータベースを作成するプロセス。データの収集およびシステムヘルスステータスの追跡を行うには、最初にシステムを検出する必要がある。自動検出のプライマリソースは、自動検出タスクページで設定される ping 検出。他のソースとして、不明システムから、またはサーバーに関する情報を持つ管理プロセッサからの受信イベントが使用される場合もある。識別は、検出されたシステムについて自動的に実行される。
収集	システムやイベントのグループを作成するための方法。
収集の編集	既存の収集を修正し、検索条件の追加や削除を行うこと。
手動検出方法	<p>次のタスクの完全検出を省略できるようにするプロセス。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1 つのシステムの追加 ● システムの編集 ● HP Systems Insight Manager データベース hosts ファイルの作成またはインポート ● 一般 hosts ファイルの作成またはインポート
使用できるソフトウェア	バージョン コントロール エージェント（HP VCA）がポイントするように設定されているレポジトリ内の使用できるソフトウェアコンポーネントのリスト。HP VCA に直接アクセスするとき、これらの追加コンポーネントを選択してインストールできる。
証明書	記載者のパブリックキーと識別情報を含む電子文書。証明書は、認証機関（CA）の署名入りで、キーと識別の関係を保証する。 認証機関 も参照。

証明書キー	暗号法で、単体または暗号デコーダ（対応するパブリックまたはプライベートキー）と一緒に使用される値。従来のプライベートキー暗号法では、お互いがメッセージを暗号化および解読できるように、キーまたは暗号キーが通信者によって共有されている。このシステムには、ある人がキーをなくすとシステムが破綻するというリスクがある。パブリックキー暗号法では、プライベートキーはパブリックキーと関連するため、システムの各人が共有されない自分独自のプライベートキーを所有している。
シングルサインオン	HP Systems Insight Manager にアクセスする認証済みユーザーが、管理対象システムに再認証せずに、HP Systems Insight Manager 内から管理対象システムにアクセスするための権限。HP Systems Insight Manager が、認証の初期ポイントとなり、別の管理対象システムへのアクセスは、HP Systems Insight Manager 内から行う。
ステータスタイプ	ステータスメッセージ（クリティカル、メジャー、マイナー、正常、警告、および不明）の分類。
ステータスメッセージ概要ヘッダー	リストヘッダーでは、リスト内のステータスメッセージの総数、および調査されなかったステータスメッセージの数が、括弧内にまとめられている。
ステータスメッセージリスト	クラスター管理リソースが作成するリスト。 [クラスター監視] ページの左下の領域に、検出されたエントリが収集され、異常な状態のクラスター属性が通知される。
ストレージシステム	ストレージシステムには、SAN に接続されたファイバーチャネルディスクアレイ、スイッチ、テープライブラリ、ホスト（ファイバーチャネルホストバスアダプター搭載）などがある。
スプーフィング	別のサイトを装う Web サイトの行ため。機密情報の収集、データランザクションの変更、不正データや誤解を招くデータの表示を行う。
すべてのイベント収集	すべてのシステムで発生したすべてのイベントを表示する。
[すべてのツール] ツールボックス	権限があるシステムがシステムグループのすべてのツールに完全にアクセスできる、デフォルトのツールボックス。
すべてのディスクスレッシュホールドの削除	HP Systems Insight Manager によって提供されるタスクであり、関連収集に載っているシステムのディスクスレッシュホールドを削除する。このタスクでは、HP Systems Insight Manager によって設定されるディスクスレッシュホールド、または Web エージェントの直接参照によって設定されるディスクスレッシュホールドだけが削除される。ディスクスレッシュホールドを含む Windows 32 用の HP Systems Insight Manager によって設定されたスレッシュホールドは、このタスクでは削除されない。
スレッシュホールド	その値に達したり、値を超えたりしたときにイベントを生成するあらかじめ設定された制限値。
制御タスク	イベントの削除、ディスクスレッシュホールドの削除、ディスクスレッシュホールドの設定、およびデバイスアクセスコミュニティ名の設定など、検索やイベントに関連する命令のシーケンス。
セキュアタスク実行	管理対象システムから安全にタスクを実行する HP Systems Insight Manager の機能。STE 機能では、タスクを要求するユーザーに適切なタスク実行権があることが保証され、要求が暗号化されてデータが保護される。
セキュリティロール	管理者が、ユーザーごとかグループごとにシステムアクセスと管理アクセスを制限できるようにする機能。システム管理者は、この機能により、高度な機能や危険な機能にアクセスできないようにして、スタッフにタスクを委任できる。システム管理者は、別の組織や顧客が所有するシステムにアクセスできないようにして、特定の組織や顧客にシステムの管理を委任することもできる。
設計者	HP Matrix Operating Environment インフラストラクチャ オーケストレーション（グラフィカルデザイナー）を使用してマルチシステムインフラストラクチャテンプレートを作成し公開するユーザー。他のユーザーはこのテンプレートを使用してインフラストラクチャサービスを作成する。
設定履歴レポート	サーバーの設定を表示するレポートを含み、設定履歴ファイルを比較して差異を発見する調査ユーティリティ。
属性	管理情報フォーマット（MIF）ファイルの属性。属性は、管理可能な製品またはコンポーネントの1つの特性を説明する。関連する属性の組み合わせは、グループを構成する。たとえば、プロセッサチップのクロック速度は、そのチップを説明するグループの属性である。管理情報フォーマット も参照。

ソフトウェアインベントリ	バージョンコントロールエージェントがインストールされているシステムにインストールされている HP 製ソフトウェアのリスト。
ソフトウェア更新	リモートサイトからソフトウェアやファームウェアを更新するタスク。
ソフトウェアの全体的なステータス	このセクションは、バージョンコントロールエージェントがインストールされているサーバー上のソフトウェアが監視するように設定されているレポジトリに、そのソフトウェアが利用できるアップデートがあるかどうかを示す。
対称鍵	メッセージの送信側と受信側が共有し、メッセージの暗号化と解読に使用する共通のキー。
タイプ	標準システムタイプとしてシステムを識別するシステムの分類システム。システムタイプは、クライアント、クラスター、ハンドヘルド、プリンター、リモートアクセスデバイス、リピータ、ルーター、サーバー、スイッチ、不明、ワークステーション、およびその他がある。
タスク	特定セットの引数を使用して、1 つ以上のシステムにおいて実行される、HP Systems Insight Manager ツールのインスタンス。
タスクスケジューリング	ポーリングタスク、コントロールタスク、および通知タスクをスケジューリングするための主要スケジューリングツール。
単一システム対応	多重システム操作をサポートしない実行タイプ。この実行タイプのツールでは、ツールが動作しているノードのみが認識される。
注意	その指示に従わなければ、装置の損傷や情報の消失を引き起こす恐れがある注意事項を示す。
中央管理サーバー	HP Systems Insight Manager ソフトウェアを実行する管理ドメイン内のシステム。HP Systems Insight Manager 内のすべての集中操作は、このシステムから開始される。
通信プロトコル	管理プロトコル を参照。
ツール	HP Systems Insight Manager がタスクを行うために 1 つ以上のシステムで実行するアプリケーション、コマンド、スクリプト。
ツールボックス	データベース管理やソフトウェア管理などの特定タスクにユーザーが必要とするツールの定義済みセット。各 HP Systems Insight Manager ツールボックスは、ツールセットおよび認証に関連付けられている。
ディスクレスシヨルドの設定	HP Systems Insight Manager により提供されるタスク。関連収集のシステムのディスクレスシヨルドを設定するには、このタスクを使用する。このレスシヨルドは、ターゲットシステム上のすべてのディスクボリュームに設定される。
データ収集タスク	管理対象システムグループから情報を収集し、データベースに格納する手順。HP Systems Insight Manager では、ハードウェアステータスポーリングタスクとデータ収集タスクが使用されて、データ収集が行われる。
データ収集レポート	データ収集レポートは、検出したシステムの情報を単一インスタンスのレポートまたは時系列変動解析レポートに含む。HP Systems Insight Manager では、Insight マネージャー 7 で単一インスタンスデータ収集タスクと呼ばれる [既存データセットの上書き (詳細解析用)] および [新規データセットを追加 (時系列変動解析用)] がサポートされる。 [既存データセットを上書き (詳細解析用)] オプションでは、単一インスタンスでシステムからデータが収集される。 [新規データセットを追加 (時系列変動解析用)] では、システムの履歴を詳述するデータが収集される。
デジタル署名	トランザクション送信者の確認に使用される技術。この技術では、プライベートキーが使用されてデータが電子的に署名され、パブリックキーが使用されて送信者が確認される。
テンプレート	サーバーグループ、ネットワーク、ストレージについて、インフラストラクチャサービスの要件を指定するツール。リクエストの実行時に HP Operations Orchestration ワークフローを使用するカスタマイズポイントを含む。
テンプレートファイル	HP Systems Insight Manager が複数の自動検出タスクを持つ前に使用されていた概念。現在では使用されないが、テンプレートファイルによって、検出 IP 包括範囲に入力されるものと同じデータ範囲 (IP 範囲など) を作成することができる。自動検出タスクは、入力として、1 つまたは複数のテンプレートファイルを持つことができる。ただし、テンプレートファイルをネストすることはできない。
ドメインネームサービス	ドメイン名を IP アドレスに変換するサービス。
トラップ	イベントが発生したことを示す管理エージェントによって生成される非要求メッセージ。たとえば、監視項目は設定レスシヨルドまたは変更されたステータスを超えていることなど。以前は、アラームと呼ばれていた。

	イベント も参照。
トラップカテゴリ	イベントタイプ単位で検出されるイベント収集システム。HP Systems Insight Manager が、機能に従って論理グループに分類した SNMP トラップ。
トラップ通知アドレス	HP Systems Insight Manager システムによって通知されるトラップ通知を受信するために指定されたシステムの IP アドレス。
認証機関	デジタル署名、およびパブリックキーとプライベートキーのペアの作成に使用されるデジタル証明書を発行する信頼できる第三者機関または企業。このプロセスでの認証機関の役割は、証明書の所有者が本人であることを保証することにある。
ネットワーククライアント	ネットワークに接続されており、HP Systems Insight Manager GUI に接続するための互換ブラウザを備える任意のコンピューターシステム。
バージョンコントロール	Windows システムおよび Linux ProLiant システムにインストールされている場合はバージョンコントロールレポジトリ マネージャーと呼ばれ、HP-UX オペレーティングシステムでは、Software Distributor と呼ばれる。管理対象のすべての ProLiant または Integrity システムのソフトウェアステータスの概要を提供し、それらのシステム上であらかじめ設定された条件に基づいて自動的にシステムソフトウェアとファームウェアのアップデートを行うことができる。バージョンコントロールは、古いシステムソフトウェアを実行しているシステムを識別して、アップグレードを利用できるかどうかを示し、アップグレードの理由を提供する。HP-UX システムでは、1 台または複数のインストール済み HP-UX システムに対して、Software Distributor を、HP Systems Insight Manager 中央管理サーバーから起動できる。
バナー	画面最上部に表示される GUI の一部分。ユーザー名が表示され、[ホーム] ページにアクセスしたり、サインアウトしたりするためのリンクがある。
標準エラー	システムがエラーメッセージを書き出す、デフォルトの場所。デフォルトは、端末ディスプレイ。
標準出力	プログラムが出力を書き出す、デフォルトの場所。デフォルトは、端末ディスプレイ。
不明ステータス	HP Systems Insight Manager が、SNMP を使用してシステムに関する管理情報を取得できない。管理関連情報は取得できませんが、システムに対して ping は実行できる。コミュニティ名またはセキュリティの設定が間違っている可能性がある。
プロビジョニング	テンプレートに基づいてサービスを作成するプロセス。ユーザーは、Insight Orchestration Self-Service Portal または Insight Orchestration コンソールを介して、サービスの作成リクエストを発行する。これに対し、Insight Orchestration コントローラーはコントローラーのイベントリを検索して、テンプレート内のすべての論理リソース定義にコンピューティングリソースを割り当てる。
分散型コンポーネントオブジェクトモデル	コンポーネントオブジェクトモデル (COM) の拡張機能であり、COM コンポーネントが、同一ネットワーク上のクライアントとサーバー間でやり取りできるようにする。
分散タスクファシリティ	管理対象システムにおける、タスクのリモート実行を管理する管理アプリケーション。
ヘルスステータス	すべてのステータスソース (SNMP、WBEM、HTTP など) の統計ステータス。最も深刻なステータスが表示される。 システムヘルスステータス も参照。
マイナーステータス	システムから収集された統計ステータス情報であり、監視対象サブシステムの 1 つ以上が正しく動作せず、システムに影響を与えていることを示す。これ以上のエラーが発生することを回避するために、できるだけ早く対処する必要がある。
マネジメント HTTP サーバー	HTTP および HTTPS 経由で通信する HP の HP Web ベース システム マネジメント ソフトウェアで使用されるソフトウェアの統合セット。HP Web ベース システム マネジメント ソフトウェアに一定の機能とセキュリティのセットを提供します。このバージョンは、ProLiant Support Pack 7.10 以前で利用できる。
マネジメントエージェント	管理対象システムで動作するデーモンまたはプロセス。管理対象システムにおいて、中央管理サーバーから要求を受信して実行する。
マルチシステム対応	多重システム操作をサポートする実行タイプ。この実行タイプのツールは、分散タスクファシリティを使用する代わりに、内部メカニズムを使用して、ターゲットシステムで動作する。MSA 実行タイプでは、分散タスクファシリティが使用されて、1 つのシステムでツールが起動されてから、その他の管理対象システムと関連するツールが起動される。

未確認イベントステータス	<p>深刻度が、クリティカル、メジャー、マイナー、正常、または情報になっており、確認もデータベースからの削除も行われていないイベント。イベントは、データベースから削除しなくても、[イベントの確認]メニューオプションを使用して消去できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● クリティカル。 障害が発生し、すぐに対応する必要がある。 ● メジャー。 近いうちに障害が発生する。 ● マイナー。 さらに深刻な問題に発展する可能性のある警告ステータス。 ● 正常。 このイベントは問題ではない。 ● 情報。 注意する必要はない。これは便利な情報として提供される。
メジャーステータス	システムから収集された統計ステータス情報であり、監視対象サブシステムの 1 つ以上が正しく動作せず、システムに影響を与えていることを示す。このステータスにはすぐに対処する必要がある。
役割	ツールボックス を参照。
ユーザー	HP Systems Insight Manager に追加されている中央管理サーバーで有効なログインがあるネットワークユーザー。
ユーザーアカウント	HP Systems Insight Manager へのサインインに使用するアカウント。このアカウントには、ローカル Windows ユーザーアカウントかドメインアカウントが関連し、HP Systems Insight Manager 内の認証レベルとポケベル属性が含まれる。
ユーザーグループ	HP Systems Insight Manager に追加されている、中央管理サーバーオペレーティングシステム上で定義されているユーザーグループ。オペレーティングシステムのユーザーグループのメンバーは、HP Systems Insight Manager にサインインできる。
ユーザー権限があるユーザー	中央管理サーバーを設定できないユーザー。ただし、ユーザーは、中央管理サーバーとすべての管理対象システムに関する定義済みレポートの表示と実行ができる。
ユーザー認証	ユーザー名とパスワードに基づいて、個人を識別するプロセス。ユーザー認証は、ログインしたユーザーが実際にその人物であるかどうかを確認するプロセスであり、「認証」とは異なる。
ラック	相互に通信するために配線されたコンポーネントのセット。ラックはエンクロージャーのためのコンテナである。
リソースパーティション	OS インスタンスが所有するリソースのサブセット。これらのリソースの使用は、Fair-Share Scheduler、pSet、メモリリソースグループなどの技術によって制御される。 また、リソースパーティションに関連付けられる一連のプロセスがあり、これらのプロセスは、リソースパーティション内のリソースを排他的に使用できる。PRM (Process Resource Manager)、WLM (Workload Manager)、gWLM (Global Workload Manager) などのツールによって確立されるポリシーは、OS インスタンス内の一連のリソースパーティションへのリソースの割り当て方法を制御する。
リソースプール	HP Virtual Server Environment が管理する物理および仮想リソースのグループ。管理者は、リソースプールへのユーザーアクセスを許可することで、リソースの利用を制御する。
リファレンス Support Pack	HP 製ソフトウェアコンポーネントのベースラインバンドル。バージョン コントロール エージェントがレポジトリでポイントするように設定できる。この設定を行うことにより、ユーザーは所有するすべてのソフトウェアについて、特定のサポートパックレベルを維持するように指定できる。
リモートウェイクアップ	Wake-On-LAN (WOL) と呼ばれることもある。常駐 WOL ネットワークカードによって、リモートサイトからシステムの電源を入れること。その場合、ROM または F10 キー (セットアップ) からのシステムの「ウェイクアップ」が有効になっている必要がある。 HP Systems Insight Manager は、この機能に依存して、スケジュールされたソフトウェア更新やエージェント設定のレプリケートのシステムをオンに切り替える。

ルールセット	システム情報に適用するステータス、ポリシー、または条件で、どのようなシステムかを決定する。
レポジトリ	ProLiant Support Pack または Integrity Support Pack、および Smart コンポーネントを含むディレクトリ。

索引

C

CPU 使用率, 44

H

HP SIM のアップグレード

概要, 39

プロセス, 39

HP SIM のインストール

Linux CMS, 23

HP SIM の削除

Linux CMS, 43

L

Linux CMS

HP SIM の削除, 43

インストールおよび設定, 23

システムの準備, 22

S

Storage Management Initiative Specification

ストレージ, 31

あ

アクティブタイムアウト, 44

い

インストール

管理対象システムの要件, 8

中央管理サーバーの要件, 5

プロセスの概要, 5

お

オプションのカスタマイズ, 44

か

開始するには, 31

監査ログ

設定, 45

監視タイムアウト, 44

管理環境

ファーストタイムウィザード, 34

管理対象システム

セットアップ, 31

要件, 8

管理対象ノード 参照 管理対象システム

さ

最終結果のタスクのライフタイム, 46

最初のセットアップ 参照 初期セットアップ

サポート, 52

参考資料, 52

し

初期セットアップ, 31

管理対象システム, 31

せ

設定

HP Systems Insight Manager, 34

監査ログ, 45

管理対象システム, 31, 34

初期, 31

タイムアウトポリシー, 44

タスクの結果エントリーのライフタイム, 46

データ収集 CPU 使用率, 44

ファーストタイムウィザード, 34

設定オプション, 44

セットアップ

管理対象システム, 31

た

タイムアウトポリシー

設定, 44

タスクの結果エントリーのライフタイム, 46

タスクの結果ページ

エントリーのライフタイムの設定, 46

タスクライフタイムの長短, 46

ち

中央管理サーバー

Linux システムの準備, 22

Linux 上での HP SIM のインストール, 23

要件, 5

中央管理サーバーのアンインストール

Linux 上での HP SIM の削除, 43

て

データ収集

パフォーマンス, 44

データベース

パフォーマンス向上のためのリモート, 44

デフォルトのタイムアウト期間, 44

と

トラブルシューティング, 48

の

ノード 参照 管理対象システム

は

パラメーター

DataCollectionThreadCount, 44

EnableSessionKeepAlive, 44

LOG, 45

MX_JOB_MAX_COMPLETED_JOB_AGE, 46

MX_JOB_MAX_COMPLETED_JOBS_PER_TASK, 46

MX_JOB_MIN_COMPLETED_JOBS_PER_TASK, 46

MX_LOG_FILEEXT, 45

MX_LOG_FILENAME, 45

MX_LOG_FILESIZE, 45

MX_LOG_QUEUE_SIZE, 45

MX_LOG_ROLLFILEEXT, 45
session-timeout, 44

ひ

頻繁にスケジュールされるタスクのライフタイム, 46

ふ

ファーストタイム ウィザード, 34

よ

要件

管理対象システム, 8

中央管理サーバー, 5